

Autodesk Navisworks 2013

インストレーションガイド

2012 年 4 月

© 2012 Autodesk, Inc. All Rights Reserved. Except as otherwise permitted by Autodesk, Inc., this publication, or parts thereof, may not be reproduced in any form, by any method, for any purpose.

Certain materials included in this publication are reprinted with the permission of the copyright holder.

Trademarks

The following are registered trademarks or trademarks of Autodesk, Inc., and/or its subsidiaries and/or affiliates in the USA and other countries: 123D, 3ds Max, Algor, Alias, Alias (swirl design/logo), AliasStudio, ATC, AUGI, AutoCAD, AutoCAD Learning Assistance, AutoCAD LT, AutoCAD Simulator, AutoCAD SQL Extension, AutoCAD SQL Interface, Autodesk, Autodesk Homestyler, Autodesk Intent, Autodesk Inventor, Autodesk MapGuide, Autodesk Streamline, AutoLISP, AutoSketch, AutoSnap, AutoTrack, Backburner, Backdraft, Beast, Beast (design/logo) Built with ObjectARX (design/logo), Burn, Buzzsaw, CAICE, CFdesign, Civil 3D, Cleaner, Cleaner Central, ClearScale, Colour Warper, Combustion, Communication Specification, Constructware, Content Explorer, Creative Bridge, Dancing Baby (image), DesignCenter, Design Doctor, Designer's Toolkit, DesignKids, DesignProf, DesignServer, DesignStudio, Design Web Format, Discreet, DWF, DWG, DWG (design/logo), DWG Extreme, DWG TrueConvert, DWG TrueView, DWFX, DXF, Ecotect, Evolver, Exposure, Extending the Design Team, Face Robot, FBX, Fempro, Fire, Flame, Flare, Flint, FMDesktop, Freewheel, GDX Driver, Green Building Studio, Heads-up Design, Heidi, Homestyler, HumanIK, IDEA Server, i-drop, Illuminate Labs AB (design/logo), ImageModeler, iMOUT, Incinerator, Inferno, Instructables, Instructables (stylized robot design/logo), Inventor, Inventor LT, Kynapse, Kynogon, LandXplorer, LiquidLight, LiquidLight (design/logo), Lustre, MatchMover, Maya, Mechanical Desktop, Moldflow, Moldflow Plastics Advisers, Moldflow Plastics Insight, Moldflow Plastics Xpert, Moondust, MotionBuilder, Movimento, MPA, MPA (design/logo), MPI, MPI (design/logo), MPX, MPX (design/logo), Mudbox, Multi-Master Editing, Navisworks, ObjectARX, ObjectDBX, Opticore, Pipeplus, Pixlr, Pixlr-o-matic, PolarSnap, PortfolioWall, Powered with Autodesk Technology, Productstream, ProMaterials, RasterDWG, RealDWG, Real-time Roto, Recognize, Render Queue, Retimer, Reveal, Revit, RiverCAD, Robot, Scaleform, Scaleform GFx, Showcase, Show Me, ShowMotion, SketchBook, Smoke, Softimage, Softimage|XSI (design/logo), Sparks, SteeringWheels, Stitcher, Stone, StormNET, Tinkerbox, ToolClip, Topobase, Toxik, TrustedDWG, U-Vis, ViewCube, Visual, Visual LISP, Voice Reality, Volo, Vtour, WaterNetworks, Wire, Wiretap, WiretapCentral, XSI.

Lightworks, the Lightworks logo, LWA and LWA-Enabled are registered trademarks of Lightwork Design Ltd. The LWA-Enabled logo, Interactive Image Regeneration, IIR, A-Cubed, Feature-Following Anti-Aliasing and FFAA are all trademarks of Lightwork Design Ltd. All other trademarks, images and logos remain the property of their respective owners. Copyright of Lightwork Design Ltd. 1990-2007, 2008-2012.

This software is based in part on the work of the Independent JPEG Group.

Disclaimer

THIS PUBLICATION AND THE INFORMATION CONTAINED HEREIN IS MADE AVAILABLE BY AUTODESK, INC. "AS IS." AUTODESK, INC. DISCLAIMS ALL WARRANTIES, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO ANY IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY OR FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE REGARDING THESE MATERIALS.

目次

第 1 章	インストールプロセス	1
第 2 章	スタンドアロン インストール	3
	スタンドアロン インストールを準備する	3
	スタンドアロン インストールの動作環境	4
	Microsoft .NET Framework をインストールする	5
	管理者の権限が必要なことを理解する	6
	ライセンスの指定	6
	製品の言語を変更する	7
	Autodesk Navisworks のシリアル番号とプロダクト キーを用意する	9
	インストール中のデータ損失を避ける	9
	Autodesk Navisworks 2013 をインストール、実行する	10
	設定とインストール	10
	Autodesk Navisworks を起動する	15
	Autodesk Navisworks を別の言語で起動する方法	15
	機能を追加、削除する	16
	Autodesk Navisworks 2013 の修復	17
	Autodesk Navisworks 2013 をアンインストールする	18
	製品のアクティベーション	19
	旧リリースから Autodesk Navisworks をマイグレートする	20

第 3 章	ネットワーク管理と配置	21
	配置を計画する	21
	配置の準備を確認する	22
	配置のための動作環境	24
	インストールの種類を定義する	27
	ライセンス サーバ モデルを判別する	28
	Service Pack を含める	29
	ネットワーク共有を作成する	30
	ネットワーク ツールとライセンス サーバを設定する	32
	Network License Manager をインストールする	32
	Autodesk.com でネットワーク ライセンスのアクティベーション を行うには	33
	ライセンス サーバを環境設定する	33
	配置の選択	35
	サイレント モード	35
	ログ ファイルの場所を指定する	35
	配置の言語を変更する	37
	配置のため個々の製品を設定する	38
	プロジェクト フォルダとサイト フォルダを選択	40
	追加の設定オプションを選択する	40
	配置を作成する	42
	配置を修正する	46
	ユーザに管理イメージを通知する	47
	配布方法の概要	48
第 4 章	インストールに関する質問	49
	インストールに関する一般的な質問	49
	シリアル番号やプロダクト キーを紛失するとどうなります か?	49
	なぜ、製品のインストール後にアクティベーションが必要なので すか?	49
	Web サイトからオートデスク製品をインストールできます か?	50
	Autodesk Navisworks を登録し、アクティベーションを行う方 法	50
	スタンドアロンからネットワークにライセンスを切り替えるため の方法	52
	インストールのあと、製品のライセンス情報はどこで確認できま すか?	52
	グラフィック カード ドライバを更新する必要があるかどうかを 確認するには、どうしたらよろしいですか?	52

標準インストールを実行すると、何がインストールされますか?	53
Autodesk Navisworks の設定をサイトおよびプロジェクト単位で共有する方法	54
インストールするエクスポータ プラグインを変更する方法	56
配置およびネットワークに関する質問	56
どこに配置すべきですか?	56
管理イメージに対してすべての製品を選択しなくてはならない場合と、製品を後で追加する方法について	57
Service Pack が自分のソフトウェアで利用できるかどうかを確認するにはどうしたらよろしいですか?	58
32 ビット配置と 64 ビット配置のどちらを選択したらよろしいのですか?	58
サーバ名はどのように調べるのですか?	58
管理イメージ(MSI)ファイルとは何ですか?	59
MSP ファイルはどうやって解凍するのですか?	59
ファイアウォールに対するネットワーク ライセンス サーバの設定方法	59
ライセンスの疑問	59
スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか?	59
ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか?	60
SAMreport-Lite とは何ですか?	60
アンインストールとメンテナンスの疑問	61
どうすれば、既定のインストレーションの内容を確認できますか?	61
機能を追加または削除するときに、インストレーション フォルダを変更できますか?	61
どうすれば、製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをインストールできますか	61
製品を修復するのではなく再インストールするのはどんなときですか?	62
製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか?	62
ソフトウェアをアンインストールするとき、システムにはどのようなファイルが残りますか?	62

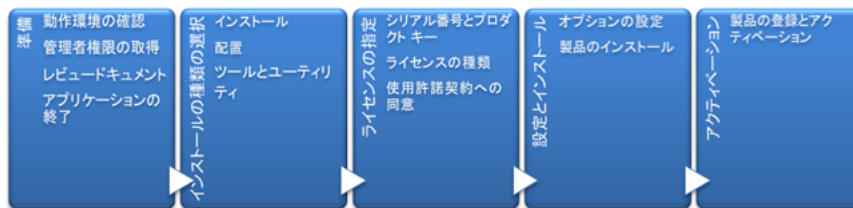
第 5 章	用語集	63
--------------	----------------------	-----------

	索引	65
--	---------------------	-----------

インストールプロセス

1

次の図では、Autodesk Navisworks 2013 製品のインストール プロセスの主要な部分を示します



インストール ウィザードを実行すると、ユーザが使用できるインストール パスがいくつかあります。

- 個人のユーザや小グループの場合には普通のインストールが推奨されます。重要な点は、インストール プロセスを各コンピュータそれぞれに対して繰り返し行うということです。これは、スタンドアロン ライセンスで唯一有効なインストール タイプですが、マルチシート スタンドアロン または ネットワーク ライセンスでも使用可能です。インストールの手引きの [スタンドアロン インストール](#) (3 ページ) セクションを参照してください。
- マルチシートのスタンドアロン または ネットワーク ライセンスを使用しているネットワーク管理者には、**[配置を作成]** がお勧めです。配置のプロセスで、インストールはいったん設定されると、ネットワーク上に格納されて、各ユーザのコンピュータ効率的に配布されます。インストールの手引きの [ネットワーク管理と配置](#) (21 ページ) セクションを参照してください。
- 使用する製品スイートや単体製品に関するツールおよびユーティリティをインストールするには、**[ツールとユーティリティ]** を使用します。現在使用している Autodesk 製品のネットワーク ライセンスを持っている場合は、このオプションを使用して、他のユーザが製品を実行する前に、Network License Manager をインストールしておく必要があります。インストールの手引きの [ネットワーク ツールとライセンス サーバを設定する](#) (32 ページ) を参照してください。

スタンドアロンインストール

2

個人のユーザや小グループの場合にはスタンドアロンインストールが推奨されます。重要な点は、インストールプロセスを各コンピュータそれぞれに対して繰り返し行うということです。スタンドアロンライセンスでは、有効なインストールの種類はこれだけになりますが、マルチシートのスタンドアロンまたはネットワークライセンスを使用することも可能です。このプログラムのネットワークライセンスまたはマルチシートスタンドアロンバージョンをインストールする方法については、「[ネットワーク管理と配置](#) (21 ページ)」を参照してください。

スタンドアロンインストレーションを準備する

スタンドアロンインストレーションの準備として、インストレーションに必要なシステム環境を確認し、管理者からの許可が必要なことを理解し、Autodesk Navisworks 2013 のシリアル番号とプロダクトキーを確認し、実行中のすべてのアプリケーションを終了する必要があります。Autodesk Navisworks Freedom をインストールする場合は、シリアル番号およびプロダクトキーは必要ありません。

Autodesk Navisworks をインストールする前に、インストレーションプロセス全体に習熟することをお勧めします。関連ドキュメントはインストーラの左下コーナーのリンクからアクセスできます。

[インストレーション ヘルプ](#) | [動作環境](#) | [Readme](#)

注: 製品をインストールする前に、Microsoft .Net Framework 4.0 をインストールすることをお勧めします。詳細は、「[Microsoft .NET Framework をインストールする](#) (5 ページ)」を参照してください。

スタンドアロンインストールの動作環境

最初に行わなければならない作業は、ご使用のコンピュータが最低限の動作環境を満たしていることの確認です。動作環境を満たしていない場合は、Autodesk Navisworks およびオペレーティング システム レベルで問題が発生する可能性があります。

Windows オペレーティング システムが、32 ビット バージョンか 64 ビット バージョンかは、インストール時に自動的に検出されます。

ハードウェアとソフトウェアの動作環境は、次の表を参照してください。

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件	
ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム (各日本語版)	Microsoft® Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット) Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、または Ultimate (推奨)
	Microsoft® Windows Vista® SP2 (32 ビットまたは 64 ビット) Home Premium、Business、Enterprise、または Ultimate
	Microsoft® Windows XP SP3 (32 ビット) Home または Professional
	Microsoft® Windows XP SP2 (64 ビット) Professional
Web ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer® 7.0 以降
プロセッサ	AMD Athlon™ 3.0 GHz 以上(最低)、Intel® Pentium® 4 3.0 GHz 以上(推奨) - SSE2 テクノロジ対応
メモリ(RAM)	512 MB (最低)、2 GB 以上(推奨)

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件	
VGA ディスプレイ	True Color 対応 1280 × 800 (最低)
	True Color 対応 1920 × 1080 32 ビット カラー ビデオ ディスプレイ アダプタ(推奨)
グラフィックス カード	Direct3D 9 [®] および OpenGL [®] 対応の、Shader Model 2 をサポートするグラフィックス カード(最小)
ハード ディスク	インストール用として 18.5 GB 以上のハードディスク空き容量
ポインティング デバイス	Microsoft [®] 2 マウス ボタン互換のポインティング デバイス
DVD-ROM	任意の速度(インストール時のみ使用)
オプションのハードウェア	プリンタまたはプロッタ
	モデム、またはインターネットへアクセスするためのその他のデバイス
	ネットワーク インタフェース カード

Microsoft .NET Framework をインストールする

Autodesk Navisworks 2013 は、製品のインストールを行う前に、Microsoft .Net 4.0 のインストールが必要です。

多くの場合、Windows Update に Microsoft .NET Framework 4 が含まれていますが、旧バージョンの Windows を使用している場合には、Microsoft .NET Framework 4 再頒布可能パッケージを

<http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=0a391abd-25c1-4fc0-919f-b21f31ab88b7> からダウンロードしてインストールすることが可能です。またはインストール メディアの `¥3rdParty¥NET¥4¥wcu¥dotNetFramework¥` フォルダからインストールすることも可能です。

[インストール]ウィザードは、必要な更新内容がインストールされていないことを検出すると、Microsoft .Net Framework 4 をインストールします。

注: **[インストール]**ウィザードで Microsoft .NET Framework 4 をインストールするよう求められた場合は、.NET Framework 4 のインストーラで最初に Windows Imaging Component (WIC)をインストールするよう求められることがあります。これは、最新の Microsoft Windows Update またはサービス パックを適用していない場合に起こることがあります。WIC が必要になる可能性が最も高いのは、特定の Windows Update をインストールしないで Windows XP SP2 を実行している場合です。必要な場合は、次の場所にある Microsoft WIC インストーラを使用できます。

- <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=8e011506-6307-445b-b950-215def45ddd8&displaylang=en>
- <http://www.microsoft.com/downloads/en/details.aspx?FamilyID=f64654ac-6e26-41d9-a90a-0e7783b864ee>

管理者の権限が必要なことを理解する

Autodesk Navisworks をインストールするには、管理者の権限が必要です。

ドメインの管理者の権限は必要ありません。管理者の権限に関する詳細は、システム管理者に問い合わせてください。

Autodesk Navisworks を実行するために、管理者の権限は必要ありません。権利が制限されたユーザでもプログラムを実行できます。

ライセンスの指定

Autodesk Navisworks Manage および Autodesk Navisworks Simulate をインストールして、それらの製品を 30 日間試用することができます。

次の注記では、概要を示します。詳細については、『**ライセンスガイド**』を参照してください。

ライセンスを購入すると、そのライセンスはスタンドアロンまたはネットワークライセンスのいずれかとして、指定数のユーザに対して構成されます。これらのライセンスの種類は次のように簡単に説明できます。

- **スタンドアロン ライセンス** は 1 名のユーザによる使用を想定しています。ライセンスを受けた製品は、2 台のコンピュータにインストールできます。ただし、それら 2 つのインスタンスを同時に実行することはできません。
- **マルチシート スタンドアロン ライセンス** は、指定の最大ユーザ数までの使用をサポートするものです。ただし、より多くのコンピュータにインストール可能なため、製品を使用する上での利便性が図られています。
- **ネットワークライセンス** は、指定の数の、ネットワークに接続しているユーザをサポートします。Network License Manager は、ネットワーク上にある 1 つまたは複数のサーバにインストールされ、複数のユーザへのライセンスの配布を管理します。

ネットワーク ライセンスを使用している場合、ライセンス購入時に指定された、Network License Manager のサーバ環境設定を選択します。

- **シングルライセンスサーバ**。1 つのサーバでネットワーク上のすべてのライセンスを管理します。
- **分散ライセンスサーバ**。ネットワーク内の複数のサーバのプールにわたって、ライセンスが配布されます。プール内の各サーバの名前を入力します。
- **冗長ライセンスサーバ**。各ライセンスの認証に、3 台のサーバを使用できます。これら 3 台のサーバの名前を入力します。

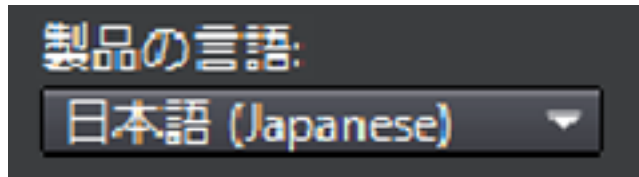
製品の言語を変更する

インストレーション処理を開始したとき、ご使用のオペレーティング システムの言語がインストーラによって自動的に決定されます。サポートされている言語が検出された場合、インストール ページは、その言語で表示されます。

インストールプロセスを開始する前に、[インストレーション]ウィザードの最初のページに表示されるインストールに関する指示の言語を変更できます。

インストーラの言語: **日本語 (Japanese)**

また、インストーラのドロップダウン メニューを使用してインストールの開始時に製品の言語も変更できます(**[製品情報]** ページ)。



インストーラの【製品情報】ページから離れた後は、言語の選択または Language Pack を追加するページが無効になります。言語の変更または Language Pack の追加を後で行う場合に、【製品情報】ページに戻ってメニューを使用することはできません。この場合は、インストールをキャンセルし、インストーラを再度実行した上で【製品情報】ページで正しい言語選択を行う必要があります。

言語パックを使用する

言語パックは、エクスポートなどの各 Autodesk Navisworks 製品で異なる言語を使用できるようにするものです。パック名の先頭は、それぞれ **NAVFREE_**、**NAVSIM_**、**NAVMAN_**、**exporters_** です。

注: 各製品に対して少なくとも1つずつの言語パックをインストールする必要があります。

Autodesk Navisworks 製品に後で追加の言語パックをインストールすることもできます。必要な言語パックを手動でインストールするには、言語パックの MSI ファイルをダブルクリックします。

言語パックは、インストレーションDVDおよび展開されたダウンロードメディアの **x86**(32 ビット製品)および **x64** フォルダ(64 ビット製品)にあります。

- 各製品向けの言語パックは、**x86** フォルダおよび **x64** フォルダの下の **NAVFREE** サブフォルダ、**NAVSIM** サブフォルダ、**NAVMAN** サブフォルダ、および **NWEXPORT** サブフォルダにあります。
- 特定言語の言語パックは、製品フォルダの下の **en-US**(英語)、**de-DE**(ドイツ語)、**es-ES**(スペイン語)、**fr-FR**(フランス語)、**it-IT**(イタリア語)、**ja-JP**(日本語)、**ko-KR**(韓国語)、**pt-BR**(ブラジルポルトガル語)、**ru-RU**(ロシア語)、**zh-CN**(簡体字中国語)の各サブフォルダにあります。

たとえば、**Autodesk Navisworks Simulate** の 32 ビット版フランス語言語パックをインストールするには、*x86/NAVSIM/fr-FR/NAVSIM_LP.msi* をダブルクリックします。**Autodesk Navisworks Manage** の 32 ビット版フランス語言語パックをインストールするには、*x86/NAVMAN/fr-FR/NAVMAN_LP.msi* をダブルクリックします。

Autodesk Navisworks のシリアル番号とプロダクト キーを用意する

Autodesk Navisworks Manage または Autodesk Navisworks Simulate をインストールする際、**[製品情報]** ページでシリアル番号とプロダクト キーが求められます。

シリアル番号は先頭に 3 桁、その後 8 桁の数字が続きます。プロダクト キーは、5 桁です。

シリアル番号とプロダクト キーは、製品パッケージの外側に記載されているか、製品をダウンロードした場合は、受け取った電子メールに記載されています。インストールの途中で作業を中断しなくてもよいように、プログラムをインストールする前に、シリアル番号とプロダクト キーを手元に用意してください。プログラムのアクティベーションを行う前に、これらが利用可能な状態になっていることを確認してください。

入力した情報は、永久的に製品に組み込まれます。この情報を後で変更する場合はアンインストールする必要があるため、注意深く入力してください。この製品情報を後でレビューするには、**[InfoCenter]** ボックスで、**[ヘルプ]** ボタンの横の下向き矢印 ▶ **[Autodesk Navisworks 2013 バージョン情報]** をクリックします。

注: シリアル番号またはプロダクト キーを紛失した場合は、オートデスクにお問い合わせください。

インストール中のデータ損失を避ける

Microsoft Outlook やウイルス チェック プログラムなどのアプリケーションが実行されていると、Autodesk Navisworks のインストールが正常に終了しない可能性があります。

データが失われるのを防ぐために、すべての実行中のアプリケーションを終了してください。

Autodesk Navisworks 2013 をインストール、実行する

Autodesk Navisworks をインストールするには、管理者の権限が必要です。

このセクションでは、スタンドアロン コンピュータのシングル ユーザ向けに、Autodesk Navisworks のインストールとアクティベーションについて説明します。

このプログラムのネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロンバージョンをインストールする方法については、「[ネットワーク管理と配置](#) (21 ページ)」を参照してください。

Autodesk Navisworks Manage または Autodesk Navisworks Simulate の初回実行時、製品をアクティベーションするか確認を求められます。詳細については、「[Autodesk Navisworks を登録し、アクティベーションを行う方法](#) (50 ページ)」を参照してください。

設定とインストール

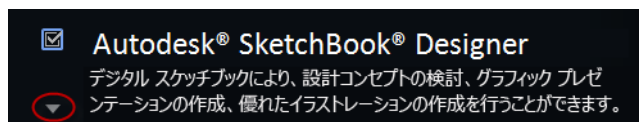
インストール時に、標準インストール(既定の設定でインストール)、またはカスタム インストールのいずれかを選択できます。

インストールパス

このパスは、製品フォルダをインストールする場所を指定します。インストール場所を変更する場合は、インストール パスに有効な ASCII 文字のみを使用してください。

環境設定

[インストール] ▶ [インストールの環境設定] ページで、インストール対象として選択した製品の隣に、三角形のボタンが表示されています。このボタンを使用すると、設定パネルに移動できます。



製品ボックス内の任意の場所をクリックして、[設定]パネルを開きます。

- **[インストールの種類][標準]**インストール(既定の設定)を選択した場合は、最も一般的なアプリケーション機能がインストールされます。**[カスタム]: [インストールする機能を選択]**リストから選択したアプリケーションの機能のみがインストールされます。利用可能な機能はインストールしている製品によって変わります。

[再頒布可能 Active X コントロール]	Autodesk Navisworks ActiveX Lite コントロールが含まれています。
[API]	Autodesk Navisworks ManageとAutodesk Navisworks Simulate の機能をカスタマイズおよび拡張するためのコンポーネントオブジェクト モデル インタフェースが含まれています。
[サンプルの NWD ファイル]	さまざまな機能のサンプル ファイルが含まれています。
[バッチ ユーティリティ]	コマンドの実行およびスケジュール設定をするアドインが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。
[サンプルの RPC]	いくつかの Rich Photorealistic Content ファイルが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。
Inventor Switchback Plugin	Inventor モデルで Switchback 機能を使用するために必要な Inventor Switchback アドインが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。

注: Autodesk Navisworks 書き込みプラグインで、インストールするプラグインを変更できます。



: ご使用のコンピュータに既にインストールされているサードパーティ製ソフトウェアを示します。



: インストールされていないか、**[インストール]**ウィザードで検出されないサードパーティ製ソフトウェアのプラグインを示します。

必要なプラグインすべてのチェックボックスを選択します。サードパーティ製のソフトウェアがウィザードで検出されなかった場合は、手動でプラグインを有効にできます。チェックボックスを選択すると、ソフトウェアの正しいインストール先を参照できるダイアログ ボックスが表示されます。

- **デスクトップ ショートカットを作成** Autodesk Navisworks へのデスクトップ ショートカットを作成するには、このチェック ボックスをオンにします。
- **[プロジェクト フォルダとサイト フォルダ]: [参照]** ボタンを使用して、Autodesk Navisworks の設定が含まれているフォルダを選択します。これらの設定は、プロジェクトサイト全体で共有することも、特定のプロジェクトグループにわたって共有することもできます(「[プロジェクト フォルダとサイト フォルダを選択 \(40 ページ\)](#)」を参照)。
- **Service Pack** Service Pack がインストール可能な場合は、Service Pack をインストールに含めることができます。

必要に応じて設定を調整した後、製品名をクリックして設定パネルを閉じます。

次に、システムに Autodesk Navisworks をインストールする最速の方法について説明します。既定値のみを使用し、C:\Program Files\Autodesk [製品名] 2013 にインストールされます。

環境設定された値を使用してスタンドアロンのコンピュータに **Autodesk Navisworks** をインストールするには

- 1 コンピュータ上で実行中のアプリケーションをすべて閉じて、**[インストール]**ウィザードを開始します。
- 2 **[インストール]**ウィザード上で、必要に応じて、**[インストーラの言語]** ドロップダウンから、**[インストール]**ウィザードの代わりに言語を選択して **[インストール]** をクリックします。

- 3 オートデスクソフトウェア使用許諾契約をお読みください。インストールを続けるには、使用許諾契約に同意する必要があります。国/地域を選択し、**[同意する]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。

注: 使用許諾契約の内容に同意しない場合は、**[キャンセル]**をクリックしてインストールを終了します。

- 4 **[製品情報]**ページで、必要に応じて**[製品の言語]**ドロップダウンを使用します(**製品の言語を変更する** (7 ページ)を参照)。

重要: インストーラの**[製品情報]**ページから離れた後は、言語の選択または Language Pack を追加するページが無効になります。言語の変更または Language Pack の追加を後で行う場合に、**[製品情報]**ページに戻ってメニューを使用することはできません。この場合は、インストールをキャンセルし、インストーラを再度実行した上で**[製品情報]**ページで正しい言語選択を行う必要があります。

- 5 **[スタンドアロン]**ライセンスの種類を選択し、シリアル番号とプロダクトキーを入力して**[次へ]**をクリックします。

注: この手順は、Autodesk Navisworks Freedom のインストールでは発生しません。

- 6 **[インストールの環境設定]**ページで、インストールする製品を選択します。

- 7 **[参照]**ボタンを使用して、製品をインストールするドライブと場所を選択します。

- 8 **[インストール]**をクリックします。ウィザードによって、選択した製品が**[標準]**インストールでインストールされます。最も一般的なアプリケーション機能がインストールされます。**[標準]**インストールにどのような機能があるのかを確認するには、「**標準インストールを実行すると、何がインストールされますか?** (53 ページ)」を参照してください。

注: 既定では、**[インストレーション]**ウィザードにおいて、ご使用のコンピュータにインストールされているすべてのサードパーティ製品用のエクスポータ プラグインが自動的に有効になります。

- 9 **[完了]**をクリックします。

[環境設定]オプションを使用することによって、インストール内容を調整できます。インストールの種類、インストール先、ライセンスの種類を選択し、プロジェクト フォルダおよびサイト フォルダの場所を指定することができます。

環境設定された値を使用してスタンドアロンのコンピュータに **Autodesk Navisworks** をインストールするには

- 1 コンピュータ上で実行中のアプリケーションをすべて閉じて、**[インストール]**ウィザードを開始します。
- 2 **[インストール]**ウィザード上で、必要に応じて、**[インストーラの言語]**ドロップダウンから、**[インストール]**ウィザードの代わりに言語を選択して**[インストール]**をクリックします。
- 3 オートデスクソフトウェア使用許諾契約をお読みください。インストールを続けるには、使用許諾契約に同意する必要があります。国/地域を選択し、**[同意する]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。

注: 使用許諾契約の内容に同意しない場合は、**[キャンセル]**をクリックしてインストールを終了します。

- 4 **[製品情報]**ページで、必要に応じて**[製品の言語]**ドロップダウンから Language Pack を追加できます(**製品の言語を変更する** (7 ページ)を参照)。

重要: インストーラの**[製品情報]**ページから離れた後は、言語の選択または Language Pack を追加するページが無効になります。言語の変更または Language Pack の追加を後で行う場合に、**[製品情報]**ページに戻ってメニューを使用することはできません。この場合は、インストールをキャンセルし、インストーラを再度実行した上で**[製品情報]**ページで正しい言語選択を行う必要があります。

- 5 **[ライセンスの種類]**を選択(**[スタンドアロン]**または**[ネットワーク]**)し、シリアル番号、プロダクトキーを入力して**[次へ]**をクリックします。

注: この手順は、Autodesk Navisworks Freedom のインストールでは発生しません。

- 6 **[インストールの環境設定]**ページで、インストールする製品を選択します。
- 7 製品の設定を行う必要がある場合は、製品名をクリックして設定の確認と変更を行える設定パネルを開きます。詳細は、「**設定とインストール** (10 ページ)」を参照してください。必要に応じて設定を調整した後、製品名をクリックして設定パネルを閉じます。
- 8 **[参照]**ボタンを使用して、製品をインストールするドライブと場所を選択します。
- 9 **[インストール]**をクリックします。**[カスタム]**インストール設定を使用して、ウィザードは選択した製品をインストールします。

10 [完了]をクリックします。

Autodesk Navisworks を起動する

次のいずれかの方法で、Autodesk Navisworks を起動することができます。

- **デスクトップ ショートカット アイコン:** Autodesk Navisworks をインストールすると、デスクトップにショートカットアイコンが作成されます。Autodesk Navisworks アイコンをダブルクリックすると、プログラムが起動します。
- **[スタート]ボタン[スタート] ▶ [プログラム]または[すべてのプログラム] ▶ [Autodesk] ▶ [<製品名>] 2013の順に**クリックします。
- **Autodesk Navisworksがインストールされている場所になります。**管理者権限を持つユーザの場合、インストール場所から Autodesk Navisworks を実行できます。権限が制限されたユーザは、Autodesk Navisworks を**[スタート]ボタン**または、**デスクトップ ショートカット アイコン**から起動しなければなりません。カスタムショートカットを作成する場合は、ショートカットの**[作業フォルダ]**として、書き込みの権限があるフォルダを指定してください。

注: Autodesk Navisworksを1つまたは複数の Language Pack とともにインストールしている場合に起動すると、既定では、コンピュータの設定に最も合致する言語が使用されます。サポートされている別の言語で Autodesk Navisworks を起動することもできます。

Autodesk Navisworks を別の言語で起動する方法

インストールされている他の言語で Autodesk Navisworks を実行するには、デスクトップ ショートカットに言語選択用の引数を追加する必要があります。これを可能にするには、Autodesk Navisworks のインストールプロセスで、少なくとも1つの Language Pack がインストールされている必要があります。

Autodesk Navisworks を別の言語で実行するには

- 1 Autodesk Navisworks のデスクトップ ショートカットを右クリックし、ショートカットメニューの**[プロパティ]**を選択して Autodesk Navisworks の**[プロパティ]**ダイアログ ボックスを開きます。

2 [ショートカット]タブで、[ターゲット]フィールドの **¥roamer.exe** の後にスペースを入力し、次の引数のいずれかを入力してください。

- **-lang en-US**: 英語表示にする場合
- **-lang de-DE**: ドイツ語表示にする場合
- **-lang es-ES**: スペイン語表示にする場合
- **-lang fr-FR**: フランス語表示にする場合
- **-lang it-IT**: イタリア語表示にする場合
- **-lang ja-JP**: 日本語表示にする場合
- **-lang ko-KR**: 韓国語表示にする場合
- **-lang pt-BR**: ブラジルポルトガル語表示にする場合
- **-lang ru-RU**: ロシア語表示にする場合
- **-lang zh-CN**: 中国語(簡体字)表示にする場合

ショートカットの構文は、"`drive:pathname¥roamer.exe`" -lang [language pack] になります。たとえば、次のように入力すると、プログラムが Autodesk Navisworks というフォルダからイタリア語で起動します。"`C:¥Autodesk Navisworks¥roamer.exe`" -lang it-IT

注: 製品を別の言語で実行するには、その言語に対応する Language Pack が既にインストールされている必要があります。

3 [OK]をクリックして変更を保存します。

機能を追加、削除する

Autodesk Navisworks 2013 製品の機能は、いつでも追加、削除できます。たとえば、Autodesk Navisworks を最初にインストールしたときに、[カスタム] インストール オプションを選択した場合は、インストールしなかった機能を後で追加する必要が生じることがあります。また、最初にインストールした機能のすべてを使用する必要がなくなる場合があります。

機能を追加または削除するには、[コントロールパネル]を使用します。この機能は、Autodesk Navisworks Freedom では使用できません。

機能を追加、削除するには

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - (Windows XP) [スタート] > [設定] > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] を選択します。
 - (Windows Vista と Windows 7) [スタート] > [コントロール パネル] > [プログラム] > [プログラムと機能] を選択します。
- 2 プログラムの一覧の [Autodesk Navisworks 2013] をクリックし、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストールと変更] (Windows Vista と Windows 7) をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 インストールウィザードが、メンテナンス モードで再度開きます。
- 3 [機能を追加/削除] をクリックします。[機能を追加または削除] ページで、インストールまたはアンインストールする機能を選択します。選択項目の左のアイコンは、実行される動作を示します。



標準インストールに含まれるとしてマークされた機能を示します。



現在インストールする予定になっていない機能を示します。



インストールされるとして元はマークされていなかったが、インストールする機能に追加された機能を示します。



除去の対象として選択されたインストール済みの機能を示します。

注: 最初にインストールしたときに選択した Autodesk Navisworks 2013 の機能に戻す必要がある場合は、[既定に戻す] をクリックします。

[更新] をクリックします。

- 4 更新が実行されると、[アップデートの完了] ページで通知されます。[完了] をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 の修復

Autodesk Navisworks 2013 が必要とするファイルを誤って削除したり、変更した場合には、Autodesk Navisworks は正常に動作しなくなり、コマンドを実行したり、ファイルを検索するときに、エラー メッセージが表示されます。

Autodesk Navisworks 2013 を修復することで、この問題を解決することができます。

修復には、最初にプログラムをインストールしたときに選択したインストールの種類の一部が使用されます。

Autodesk Navisworks 2013 を修復するには

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - (Windows XP) [スタート] ▶ [設定] ▶ [コントロール パネル] ▶ [プログラムの追加と削除] を選択します。
 - (Windows Vista と Windows 7) [スタート] ▶ [コントロール パネル] ▶ [プログラム] ▶ [プログラムと機能] を選択します。
- 2 プログラムの一覧の [Autodesk Navisworks 2013] をクリックし、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストールと変更] (Windows Vista と Windows 7) をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 インストールウィザードが、メンテナンス モードで再度開きます。
- 3 **[Repair or Reinstall]** をクリックします。
- 4 **[修復または再インストールを選択]** ページで、**[Autodesk Navisworks 2013 を修復]** をクリックします。このオプションは、Autodesk Navisworks を最初にインストールしたときのレジストリ エントリをすべて既定の状態に置換して、Autodesk Navisworks 2013 を復元します。**[修復]** をクリックします。

注: [Autodesk Navisworks 2013 を再インストール] では、レジストリを修復して元のインストール環境からすべてのファイルを再インストールします。このオプションは、[Autodesk Navisworks 2013 を修復] オプションを使用しても問題が解決しない場合使用します。
- 5 **[修復の完了]** ページで **[完了]** をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 をアンインストールする

Autodesk Navisworks 2013 のアンインストールを実行すると、すべてのコンポーネントが削除されます。つまり、コンポーネントを追加、削除したり、

Autodesk Navisworks 2013 の再インストールや修復を行っていても、アンインストールすると、Autodesk Navisworks のすべてのコンポーネントがコンピュータから削除されます。

重要: レジストリ クリーニング プログラムを使用したり、レジストリ エントリを独自に変更して、Autodesk Navisworks 2013 をアンインストールしないでください。正式なアンインストール手順に従わないと、ソフトウェアを再インストールできなくなることがあります。

Autodesk Navisworks 2013 をアンインストールするには

- 1 次のいずれかの操作を行います。
 - (Windows XP) [スタート] ▶ [設定] ▶ [コントロール パネル] ▶ [プログラムの追加と削除] を選択します。
 - (Windows Vista と Windows 7) [スタート] ▶ [コントロール パネル] ▶ [プログラム] ▶ [プログラムと機能] を選択します。
- 2 プログラムの一覧の [Autodesk Navisworks 2013] をクリックし、[変更と削除] (Windows XP) または [アンインストールと変更] (Windows Vista と Windows 7) をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 インストールウィザードが、メンテナンス モードで再度開きます。
- 3 [アンインストール] をクリックします。
- 4 製品が正常にアンインストールされたら、[完了] をクリックします。

注: システムから Autodesk Navisworks 2013 を削除してもソフトウェア ライセンスはそのまま残ります。今後、Autodesk Navisworks 2013 を再インストールする場合は、プログラムを登録および再有効化する必要はありません。これは、Autodesk Navisworks Freedom 製品では発生しません。

製品のアクティベーション

Autodesk Navisworks 2013 の初回実行時、製品をアクティベーションするか確認を求められます。これは、Autodesk Navisworks Freedom では発生しません。

コンピュータがインターネットに接続されている場合、直接オートデスクと通信してアクティベーション処理を完了できます。

コンピュータがインターネットに接続されていない場合は、後で接続したときにアクティベーションを行えます。一部の製品では、Webまたは電子メールでオートデスクにシリアル番号、リクエストコード、登録データを送信して、オフラインでアクティベーションを行えます。アクティベーションの詳細については、[Autodesk Licensing](#)にアクセスし、FAQリンクをクリックしてください。

旧リリースから Autodesk Navisworks をマイグレートする

旧バージョンの Autodesk Navisworks がインストールされている場合に、旧バージョンの製品をコンピュータに残したまま Autodesk Navisworks 2013 をインストールすることができます。これを「共存インストール」といいます。この機能は、Autodesk Navisworks Freedom では使用できません。

Autodesk Navisworks 2013 の Autodesk Navisworks 2013 版を購入した場合には、Autodesk Navisworks 2013 をインストールしてから 120 日以内に旧バージョンをアンインストールする必要があります。詳細はソフトウェア使用許諾契約書を参照してください。

ネットワーク管理と配置

3

このセクションでは、Autodesk Navisworks Manage および Autodesk Navisworks Simulate2013 のネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロン バージョンをインストールする手順について説明します。

配置を計画する

配置は、標準設定を使用して、1つまたは複数の Autodesk 製品を複数のコンピュータにインストールするための有効な手段です。

インストール プロセスに必要なファイルは、ネットワーク上、管理イメージ内、すべてのユーザが共有アクセス可能なフォルダに格納されます。製品をインストールするには、配置フォルダに移動し、インストーラ ショートカット(.LNK ファイル)をダブルクリックします。 .

配置に関する基本的な情報:

- 配置は、ネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロン ライセンスに対して作成できます。
- 異なる設定を持つ複数の配置は、インストールファイルのセットである同一の管理イメージを共有して、同一フォルダに併存できます。
- 各配置では、複数の製品が単一の言語でインストールされます。
- 既存の配置は、異なる設定を使用する別の配置を作成するためのベースとして使用できます。
- 配置は、各インストールのログ ファイルを生成するように設定できます。ネットワーク管理者は、これらのログ ファイルをトラブルシューティングの目的で使用できます。
- 各配置では、次のサブフォルダが作成されます。 <deploymentname>%SMS_SCCM scripts このサブフォルダには、Microsoft Systems Management Server (SMS)

および System Center Configuration Manager (SCCM) を使用して配置の配布を実行するときに役立つ次の 2 つのドキュメントが含まれています。
SMS_SCCM_ReadMe.txt および <deployment name>_SCCM.txt.

配置の準備を確認する

チェックリストにより、終えておくべき準備作業、収集すべき情報、およびネットワーク配置の作成前に決定しておくべき事項が示されます。

ヒント: 製品の構成設定の詳細などを含む、配置の設定を確認するために、テスト配置を作成できます。確認プロセスを終えた後は、テスト配置を削除できます。

配置のチェックリスト

<input type="checkbox"/>	インストーラの[動作環境]リンクをクリックして、システム要件を確認します。ネットワーク、サーバ、クライアント コンピュータが動作環境を満たしていることを確認します。
<input type="checkbox"/>	購入したライセンスの種類をインストールする一般的なプロセスを確認します。ネットワーク ライセンスの配置の場合、ライセンス サーバ名、およびライセンス購入時に指定されたライセンス サーバ モデルの種類を確認します。詳細は、「 ライセンス サーバ モデルを判別する (28 ページ) 」を参照してください。
<input type="checkbox"/>	サポート ツールとユーティリティをインストールし、アクティブにします。たとえば、ネットワーク ライセンスを使用している場合、インストーラからネットワーク ライセンス マネージャをインストールします。
<input type="checkbox"/>	製品のシリアル番号とプロダクト キーを確認します。シリアル番号とプロダクト キーは、製品パッケージの外側に記載されているか、製品をダウンロードまたはアップグレードした場合は、オートデスクから受け取った電子メール メッセージに記載されています。

配置のチェックリスト

<input type="checkbox"/>	配置のネットワーク場所を指定し、配置を格納するための共有フォルダを作成します。
<input type="checkbox"/>	他のすべてのプログラムを終了し、ウィルスチェックソフトウェアを停止します。
<input type="checkbox"/>	管理イメージに含める言語、および配置パッケージで使用する言語を決定します。 <small>注: 初回の配置作成時または新規の配置構成の作成時に、使用する言語を含めることが可能です。ただし、配置の修正時には言語を設定することはできません。</small>
<input type="checkbox"/>	ログ ファイルを各コンピュータ上に作成するか、配置フォルダに作成するか、あるいはその両方に作成するかを指定します。
<input type="checkbox"/>	インストールをサイレント モードで実行するかを指定します。 <small>注: サイレント モードで製品がインストールされると、インストールの完了時に警告メッセージは表示されずに、ユーザのシステムが自動的に再起動されます。</small>
<input type="checkbox"/>	サポート ファイルの保存場所や、自動的にサービスパックをインストールするかの指定などの関連する構成設定を特定します。
<input type="checkbox"/>	グローバル オプション、ワークスペース、DataTools、アバター、Clash Detective ルールとカスタム テスト、Presenter アーカイブ、オブジェクト アニメーション スクリプトといったその他の適用可能な構成設定を指定します。

配置のための動作環境

このセクションでは、作成する管理イメージを置く場所、ネットワーク ライセンス サーバ、クライアント ワークステーションの動作環境について説明します。プログラムをネットワークにインストールする前に、ネットワーク サーバとクライアント ワークステーションが、配置に対して最低限のハードウェアとソフトウェアの動作環境を満たしていることを確認します。

Autodesk Navisworks のインストール時に、Windows オペレーティング システムが 32 ビットか 64 ビットかが自動的に検出されます。どのバージョンの Autodesk Navisworks をインストールするかを選択できます。

管理イメージ、ライセンス サーバ、クライアント ワークステーションの動作環境は、次の表を参照してください。

管理イメージ格納場所のハードウェアとソフトウェア要件	
ハードウェア/ソフトウェア	要件
ハードディスク	10 GB

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件	
ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム (各日本語版)	Microsoft® Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット) Home Basic、Home Premium、Professional、Enterprise、または Ultimate (推奨)
	Microsoft® Windows Vista® SP2 (32 ビットまたは 64 ビット) Home Premium、Business、Enterprise、または Ultimate
	Microsoft® Windows XP SP3 (32 ビット) Home または Professional
	Microsoft® Windows XP SP2 (64 ビット) Professional

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件

Web ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer® 7.0 以降
プロセッサ	AMD Athlon™ 3.0 GHz 以上(最低)、Intel® Pentium® 4 3.0 GHz 以上(推奨) - SSE2 テクノロジ対応
メモリ(RAM)	512 MB (最低)、2 GB 以上(推奨)
VGA ディスプレイ	True Color 対応 1280 × 800 VGA (最低) True Color 対応 1920 × 1080 32 ビット カラー ビデオ ディスプレイ アダプタ(推奨)
グラフィックス カード	Direct3D 9® および OpenGL® 対応の、Shader Model 2 をサポートするグラフィックス カード(最小)
ハード ディスク	インストール用として 18.5 GB 以上のハードディスク 空き容量
ポインティング デバイス	Microsoft® 2 マウス ボタン互換のポインティング デバイス
DVD-ROM	任意の速度(インストール時のみ使用)
オプションのハードウェア	プリンタまたはプロッタ モデム、またはインターネットへアクセスするためのその他のデバイス

クライアント コンピュータのハードウェアとソフトウェア要件

ネットワーク インタフェース カード

Network License Manager のハードウェアとソフトウェアの動作環境 (Windows)

ハードウェア/ソフトウェア	要件
オペレーティング システム (各日本語版)	Microsoft® Windows 7 (32 ビットまたは 64 ビット) <ul style="list-style-type: none">■ Windows 7 Enterprise■ Windows 7 Ultimate■ Windows 7 Professional■ Windows 7 Home Premium
	Microsoft® Windows Vista® SP2 以降(32 ビットまたは 64 ビット) <ul style="list-style-type: none">■ Windows Vista Enterprise■ Windows Vista Ultimate■ Windows Vista Business■ Windows Vista Home Premium および Basic (32 ビット)■ Windows Vista Home Premium (64 ビット)
	Microsoft® Windows XP SP2 以降(32 ビットまたは 64 ビット) <ul style="list-style-type: none">■ Windows XP Professional■ Windows XP Home
	Windows Server SP1 以降(32 ビットまたは 64 ビット) <ul style="list-style-type: none">■ Windows 2008 Server R2■ Windows 2008 Server■ Windows 2003 Server R2■ Windows 2003 Server
コンピュータ/プロセッサ	Intel® Pentium® III 以上

Network License Manager のハードウェアとソフトウェアの動作環境 (Windows)	
ハードウェア/ソフトウェア	要件
	450 MHz(最低)
ネットワーク インタフェース カード	既存のイーサネット ネットワーク インフラストラクチャに準拠 注: Network License Manager は、イーサネット ネットワーク環境のみに対応しています。
通信プロトコル	TCP/IP 注: Network License Manager は TCP パケット タイプを使用します。
FLEXnet	11.10.0.0

インストールの種類を定義する

配置を作成する場合、対象プラットフォームおよびライセンスの種類に応じてインストールの種類を指定します。

対象プラットフォーム

配置を使用するコンピュータのオペレーティングシステムに応じて 32 ビットまたは 64 ビットのプラットフォームのいずれかを指定してください。一部のオートデスク製品では、32 ビットバージョンの製品を 64 ビット オペレーティングシステムにインストールすることが可能です。

ライセンスの種類

次のライセンスの種類から、購入したライセンスの種類に基づき 1 つを選択します。

- **[ネットワークライセンス]**: このライセンスの種類では、1つ以上のサーバで製品が **Network License Manager** と通信するために必要なファイルとレジストリ エントリと共に、製品をネットワーク上のコンピュータにインストールします。さらに、NLM 設定も定義します。Autodesk 製品をクライア

ントコンピュータで起動すると、その製品によって、NLM からライセンスが要求され、製品の終了時にライセンスが戻されます。ネットワークインストールで製品を実行するコンピュータは、個別にアクティベーションを行う必要はありません。詳細は、「[ライセンス サーバ モデルを判別する](#) (28 ページ)」を参照してください。

ネットワーク ライセンスの主な利点は、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです(たとえば、25 のライセンスを購入し、40 台のワークステーションにインストールできます)。製品は購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できるため、真のフローティング ライセンスが実現します。

- **スタンドアロン ライセンス。**この種類のライセンスは、マルチシート スタンドアロン インストール用で、複数のコンピュータへ製品をインストールするために、1つのシリアル番号とプロダクトキーが使用されます。このライセンスの種類では、製品ライセンスの管理にNLMは使用しません。その代わりに、インストール、登録、アクティベーションは、個別のコンピュータで行われます。一度マルチシート スタンドアロン シリアル番号とプロダクトキーを使用してアクティベーションを行うと、その後はその配置を使用して、インターネットに接続されているすべてのコンピュータで自動的にアクティベーションが行われます。

ライセンス サーバ モデルを判別する

[ネットワーク]オプションを選択する場合は、製品ライセンスの配布にどのライセンス サーバ モデルを使用するかを認識する必要があります。

ライセンスを購入したときに、次のいずれかに指定されています。

- **シングル ライセンス サーバ モデル:Network License Manager (NLM)**が1台のサーバにインストールされるため、ライセンスの管理と動作は、このサーバに制限されます。1つのライセンス ファイルにより、サーバ上の使用可能なライセンスの合計数が記録されます。
- **分散ライセンス サーバ モデル:**ライセンスは複数のサーバに分散されます。サーバごとに、一意のライセンス ファイルが必要になります。分散ライセンス サーバを構築するには、分散サーバ プールの一部である各サーバ上で NLM を実行する必要があります。
- **冗長ライセンス サーバ モデル:**各ライセンスの認証に、3台のサーバを使用できます。1台のサーバがマスターとして機能し、マスターサーバに障害が発生すると、他の2台のサーバがバックアップとして機能します。この環境

設定を使用すると、少なくとも2台のサーバが稼働している限り、ライセンスの監視と発行が継続されます。3台のサーバにあるライセンスファイルは同じ内容です。NLMを各サーバにインストールしなければなりません。

これらの各ライセンスサーバモデルの詳細は、『オートデスクライセンスガイド』に記載されています。製品を配置する前に、このガイドを読むことをお勧めします。インストーラの[インストレーションヘルプ]リンクをクリックすることで、『ライセンスガイド』を確認できます。

ヒント: スタンドアロンインストレーションまたはマルチシートスタンドアロンインストレーションで配置する場合には、ライセンスサーバモデルは使用しません。

Service Pack を含める

Autodesk Navisworks 2013 は配置に Service Pack を含めるためのオプションを提供しています。

ローカルのハードディスクドライブまたはネットワーク上に保存された Service Pack を使用できます。複数の Service Pack を配置に追加することも可能です。

注: Service Pack は、メイン製品のインストールの完了後に適用されます。メイン製品の配置処理がキャンセルされたり失敗した場合、Service Pack のインストレーションは、自動的にキャンセルされます。

配置に Service Pack を含めるためのオプションは次の2つです。

- **[Service Pack をこの配置に追加する]** サービスパックを追加すると、サービスパックは現在の配置にのみ適用されます。複数のサービスパックを1つの配置に追加できます。サービスパックファイルは配置に含まれており、製品が配置されてから適用されます。
- **[Service Pack を管理イメージの MSI ファイルに合成する]** このオプションを使用すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、サービスパックは管理イメージから除外できなくなります。

Service Pack から Microsoft Installer Patch (MSP) ファイルを展開するには

- サポート サイト から Service Pack をダウンロードします。
 - Service Pack の Readme ファイルを読んで、パッチの使用に関する注意を確認してください。
 - Windows のコマンド プロンプトを開いて、パッチ ファイル名およびそれに続いて /a スイッチを入力します。一般的なコマンドの形式はこのようになります。
`<ローカル_ドライブ>:>¥<パッチ_名前>.exe /a`
具体例を示します。ProductSP1.exe /aこの場合、**ProductSP1.exe** がダウンロード対象のパッチの名前です。

注: Service Pack を配置に含めるには、ダウンロードした Service Pack ファイルから MSP ファイルを展開する必要があります。

Service Pack を配置に含めるには

- [環境設定] ページで製品名をクリックして環境設定パネルを開きます。
 - [Service Pack] の領域で[追加] ボタンをクリックします。
 - [開く] ダイアログ ボックスで、配置に含める Service Pack を検索します。
 - MSP ファイルを選択して[開く] をクリックします。
 - Service Pack を配置に追加するか、Service Pack を管理イメージに合成するかを指定します。
 - 製品名をクリックして、[設定] パネルを閉じます。

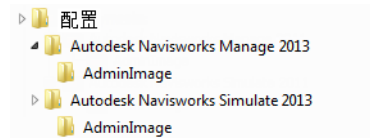
ネットワーク共有を作成する

ネットワーク共有は、ネットワーク上のユーザのコンピュータで利用可能なインストール用のフォルダです。ネットワーク共有で配置を作成し、プログラムのインストール用として、ユーザにこの場所を知らせます。ネットワーク共有フォルダ内のサブフォルダは自動的に共有フォルダになります。プログラムのインストール用として、ユーザにはこの場所を知らせます。

配置の作成の一環として、ネットワーク共有に配置フォルダを作成することができます。同一の製品またはスイートの配置を複数作成し、異なるユーザグループに対して設定する場合、これらの配置では同一の管理イメージを共有でき、配

置のショートカットを同一のフォルダに収めることができます。ただし、異なる製品やスイートの配置を作成する場合は、配置の作成を開始する前に、ネットワーク共有で個別の製品フォルダを作成することをお勧めします。

たとえば、配置を保存するシステムのデスクトップのネットワーク共有フォルダに **Deployments**(配置)と名前を付けることができます。次に、共有 **Deployments** フォルダ内に、配置を予定している製品の名前を明確に示すサブフォルダを追加できます。この方法は複数の製品を配置するときにも役立ちます。



配置イメージを作成するときは、共有フォルダに**フル コントロール**の権限が必要です。読み取りの権利は、ネットワーク共有にアクセスするのに必要です。また、管理者の権利は、プログラムが配置されるワークステーションで必要です。ネットワーク ログ ファイルを作成するオプションを選択した場合、インストール中にユーザのコンピュータによって、ネットワーク共有のログ ファイルにエントリが書き込まれます。したがって、このオプションでは、ユーザがネットワーク共有に対して読み出し/書き込みの権限を所有している必要があります。

ネットワーク共有を作成するには

- 1 Windows 7、Vista および XP の場合、ネットワーク サーバのデスクトップに、**Deployments** という名前のフォルダを作成します。
- 2 配置フォルダを右クリックし、**[プロパティ]**を選択します。
- 3 **[プロパティ]**ダイアログ ボックスで**[共有]**タブ®**[詳細な共有]**の順に選択します。
- 4 **[詳細な共有]**ダイアログ ボックスで**[このフォルダを共有する]**ボックスをオンにします。
- 5 **[許可]**をクリックし、**[アクセス許可]**ダイアログ ボックスでユーザを追加または削除します。
- 6 **[許可]**で、選択したユーザに対して**[フル コントロール]**を選択します。

これらの手順は、配置イメージを作成する場合に重要になります。

- 7 **[OK]**または**[閉じる]**をクリックして、**[プロパティ]**ダイアログ ボックスを閉じます。

- 8 複数の製品をインストールする場合は、**Deployments** フォルダにサブフォルダを作成します。それぞれのフォルダの名前は製品名にします。

注: ファイル共有の操作は、ご使用のオペレーティング システムによって異なります。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。

ネットワークツールとライセンスサーバを設定する

ネットワーク ライセンスを使用してプログラムを実行するユーザがいる場合は、**Network License Manager** を使用する必要があります。

Network License Manager は、ライセンス サーバの環境設定や管理に役立ちます。

Network License Manager をインストールする

Network License Manager は、ライセンス サーバを環境設定し管理するために使用します。

Network License Manager をインストールするには

- 1 Autodesk Navisworks 2013 [インストール]ウィザードで、[ツールとユーティリティ]をクリックします。
- 2 [インストールの環境設定]ページで[**Network License Manager**]を選択し、[インストール]をクリックします。

注: 既定のインストールパス(C:\Program Files\Autodesk)を受け入れるか、または[参照]で他のパスを指定します。存在しないパスを入力した場合は、指定した場所および名前新しいフォルダが作成されます。

警告: リモート ドライブに **Network License Manager** をインストールしないでください。 **Network License Manager** ファイルをインストールする場合は、ローカル ドライブ上のパスを指定する必要があります。UNC(Universal Naming Convention)は使用できません。ドライブ名を指定してください。

- 3 オートデスクソフトウェア使用許諾契約をお読みください。インストールを続けるには、使用許諾契約に同意する必要があります。国/地域を選択し、[同意する]を選択し、[次へ]をクリックします。
- 4 [インストールの完了]ページで、[完了]をクリックします。

Autodesk.com でネットワーク ライセンスのアクティベーションを行うには

製品にネットワーク ライセンス アクティベーションユーティリティが含まれていない場合、<https://registeronce.autodesk.com> にアクセスし、画面に表示される指示に従って、ライセンスのアクティベーションを行うことができます。

ライセンス サーバを環境設定する

ご使用の Autodesk Navisworks 製品のライセンスを管理できるように、ライセンス サーバを環境設定します。

ライセンス サーバは **lmtools.exe** ユーティリティを使用して環境設定することができます。

LMTOOLS を使用する場合は、管理者の権限でログインする必要があります。

ライセンス サーバを環境設定するには

- 1 次の手順のいずれかを実行します。
 - (Windows XP) [スタート] ▶ [プログラム] ▶ [Autodesk] ▶ [Network License Manager] ▶ [LMTOOLS] を選択します。
 - (Windows Vista と Windows 7) デスクトップの [LMTOOLS Utility] アイコンをダブルクリックします。
- 2 **Lmtools** プログラムの [Service/License File] タブで、[Configuration using Services] オプションを選択します。
- 3 [Config Services] タブを選択します。
- 4 [Service Name] リストで、ライセンス管理に使用するサービス名を選択します。

既定のサービス名は、**Flexlm Service 1** です。ご使用のコンピュータでオートデスク製品以外のソフトウェアも、FLEXnet® で管理している場合

は、サービス名の衝突を避けるため、たとえば、**Flexlm Service 1** を **Autodesk Server1** に名前変更することができます。

注: ライセンス管理に FLEXnet を使用するソフトウェアベンダが複数存在する場合は、**[Service Name]** リストに複数のオプションが表示されます。オートデスクのサービスだけがリストされるようにしてください。

- 5 **[Path to the lmgrd.exe file]** フィールドに、**Network License Manager** デーモン (*lmgrd.exe*) のパスを入力するか、**[Browse]** をクリックしてファイルの場所を指定します。
このデーモンは、既定では **C:\Program Files\Autodesk Network License Manager** フォルダにインストールされます。
- 6 **[Path to the license file]** ボックスに、ライセンス ファイルのパスを入力するか、**[Browse]** をクリックしてファイルの場所を指定します。
- 7 **[Path to the debug log file]** ボックスに、デバッグ ログのパスを入力するか、**[Browse]** をクリックして既存のログ ファイルを指定します。
\Program Files\Autodesk Network License Manager フォルダに保存することをお勧めします。ログファイルの拡張子は必ず **.log** にしてください。新しいログ ファイルを指定するときに、拡張子 **.log** を省略することはできません。
- 8 **lmgrd.exe** をサービスとして実行するには、**[Use Services]** チェック ボックスをオンにします。
- 9 システムの起動時に **lmgrd.exe** を自動的に開始するには、**[Start Server at Power Up]** チェック ボックスをオンにします。
- 10 **[Save Service]** ボタンをクリックし、手順 4 で選択したサービス名で新しい環境設定を保存します。サービスの設定を保存するかどうかを確認するプロンプトに対して、**[はい]** をクリックします。
- 11 **[Start/Stop/Reread]** タブをクリックして、次のいずれかの操作を行います。
 - オートデスク製品用にサービスがまだ設定されていない場合には、**[Start Server]** ボタンをクリックして、ライセンス サーバを起動します。
 - オートデスク製品用にサービスが既に設定され、起動している場合は、ライセンス ファイルやオプションファイルの変更を **Network License Manager** に反映させるために、**[ReRead License File]** をクリックしてください。

ライセンスサーバが起動し、クライアント要求に応答できる準備ができません。

12 **lmtools.exe** を終了します。

配置の選択

配置を作成する場合、さまざまなクライアント配置イメージおよび配置の種類を作成する過程で、各種の選択を行います。次のセクションでは、それらの選択の概要を詳細に示します。

サイレントモード

サイレントモードがアクティブで、ユーザが配置を開始した場合は、インストレーションは明示的なユーザ入力を求めません。

ユーザの関与が必要なダイアログボックスはまったく表示されません。これには、すべてのエラーおよび警告のダイアログボックスが含まれます。インストレーションの問題で発生する可能性があるエラーについてログファイルを確認してください。

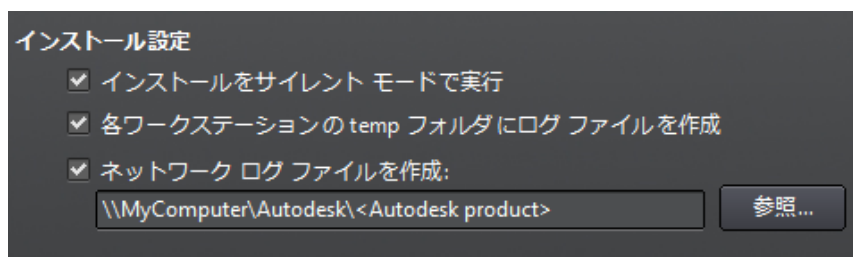
[配置を設定]ページで**[インストールをサイレントモードで実行]**チェックボックスをクリックしてサイレントモードを有効にできます。

クライアントコンピュータ上でのサイレントインストールの失敗を回避するには

- [Microsoft .Net Framework 4.0](#) (5 ページ) をクライアントコンピュータにインストールする
- Autodesk Navisworks 2013 をインストールする前にクライアントコンピュータを再起動する

ログファイルの場所を指定する

配置設定処理の**[配置を作成]** ▶ **[環境設定]**ページで、ネットワークログファイルを作成するかどうかを選択します。プログラムには、配置とインストレーションの情報を監視するために使用する、2種類のログファイルがあります。



- **ネットワーク ログ:** ネットワーク ログ ファイルには、配置を実行したすべてのワークステーションの記録が保存されます。ログには、ユーザ名、ワークステーション名、インストレーションの状態が出力されます。ステータス情報や、インストール中に発生した問題(ディスク容量不足やアクセス権利の不備など)の詳細を確認するには、このファイルを参照します。

ネットワーク ログは、配置に付けた名前と同じ名前になります。ネットワークの正しい UNC(universal naming convention)パスまたはネットワーク上のハード コード パスを入力して、ログ ファイルが作成される場所を指定できます。たとえば、**\\MyComputer\Autodesk\<オートデスク製品>**となります。ユーザは、**MyComputer**ではなく、使用している実際のコンピュータの名前を使用する必要があります。

注: ネットワーク ログを保存するフォルダは、プログラムをインストールするユーザが変更の権利を持つ共有フォルダにします。そうしないと、ユーザがインストールに成功/失敗したことがログ ファイルに記録されません。

- **クライアント ログ:** クライアント ログには、各クライアントの詳細なインストレーション情報が記録されます。この情報は、インストレーションの問題の診断に役立ちます。クライアント ログ ファイルは、各クライアントワークステーションの **Temp** フォルダに保存されます。

ログ ファイルの場所を指定するには

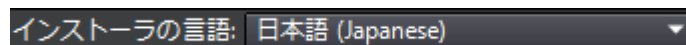
- 1 配置を作成するときに、**[環境設定]** ページで、**[ネットワーク ログ ファイルを作成]** チェック ボックスをオンにします。ネットワーク ログを格納するフォルダの名前を入力します。
- 2 クライアント ログを作成する場合は、**[各ワークステーションの temp フォルダにログ ファイルを作成]** オプションをオンにします。
- 3 **[次へ]** をクリックします。

配置の言語を変更する

配置処理で表示される言語に対して、および同じ配置処理での製品のインストールで表示される言語に対して、異なる言語を選択することができます。

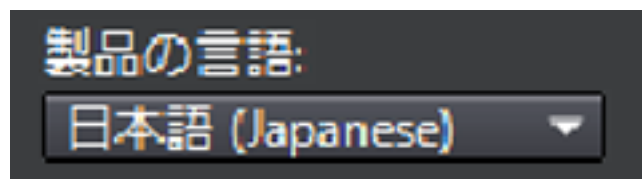
注: 言語パックは、配置を作成しているときにのみ、管理イメージに含めることができます。修正時に含めることはできません。

配置処理を開始したとき、ご使用のオペレーティング システムの言語がインストーラによって自動的に決定されます。サポートされている言語が検出された場合、配置のページは、その言語で表示されます。インストール プロセスを開始する前に、[インストール]ウィザードの最初のページに表示されるインストールに関する指示の言語を変更できます。



インストーラの言語: 日本語 (Japanese)

Autodesk Navisworks を母言語以外の 1 つ以上の言語でユーザーに提供する必要がある場合、インストーラ([製品情報]ページ)の言語パックを使用できます。これによって、サポートする必要のある言語で製品を配置することができます。



製品の言語:
日本語 (Japanese)

インストーラの[製品情報]ページから離れた後は、言語の選択または Language Pack を追加するページが無効になります。言語の変更または Language Pack の追加を後で行う場合に、[製品情報]ページに戻ってメニューを使用することはできません。この場合は、インストールをキャンセルし、インストーラを再度実行した上で[製品情報]ページで正しい言語選択を行う必要があります。

言語パックを使用する

言語パックは、エクスポータなどの各 Autodesk Navisworks 製品で異なる言語を使用できるようにするものです。パック名の先頭は、それぞれ **NAVFREE_**、**NAVSIM_**、**NAVMAN_**、**exporters_** です。

重要: 各製品で配置用に選択できる言語パックは 1 つだけです。

後で言語パックの MSI ファイルをダブルクリックすることにより、他の言語パックを Autodesk Navisworks 製品に手動でインストールできます。または、追加の言語パックをインストールするスクリプトを作成して実行することもできます。

言語パックは、インストールDVD および展開されたダウンロードメディアの **x86** (32 ビット製品) および **x64** フォルダ (64 ビット製品) にあります。

- 各製品向けの言語パックは、**x86** フォルダおよび **x64** フォルダの下の **NAVFREE** サブフォルダ、**NAVSIM** サブフォルダ、**NAVMAN** サブフォルダ、および **NWEXPORT** サブフォルダにあります。
- 特定言語の言語パックは、製品フォルダの下の **en-US** (英語)、**de-DE** (ドイツ語)、**es-ES** (スペイン語)、**fr-FR** (フランス語)、**it-IT** (イタリア語)、**ja-JP** (日本語)、**ko-KR** (韓国語)、**pt-BR** (ブラジルポルトガル語)、**ru-RU** (ロシア語)、**zh-CN** (簡体字中国語) の各サブフォルダにあります。

配置のため個々の製品を設定する

配置を作成するときに、インストールするすべての製品で既定の設定を受け入れるか、それらの設定を変更して配置をカスタマイズするか選択できます。

重要: 選択した環境設定は、配置からインストールされた製品の各インスタンスに適用されます。配置の作成後は、これらの設定は配置を変更することによってのみ変更可能です。詳細は、「[配置を修正する \(46 ページ\)](#)」を参照してください。

インストーラの **[配置を作成]** ▶ **[配置を設定]** ページで、インストール対象として選択した製品の隣に、三角形のボタンが表示されています。このボタンを使用すると、設定ペインに移動できます。



製品ボックス内の任意の場所をクリックして、**[設定]** パネルを開きます。

- **[インストールの種類][標準]** インストール (既定の設定) を選択した場合は、最も一般的なアプリケーション機能がインストールされます。**[カスタム]: [インストールする機能を選択]** リストから選択したアプリケーションの機能のみ

がインストールされます。利用可能な機能はインストールしている製品によって変わります。

[再頒布可能 Active X コントロール]	Autodesk Navisworks ActiveX Lite コントロールが含まれています。
[API]	Autodesk Navisworks Manage と Autodesk Navisworks Simulate の機能をカスタマイズおよび拡張するためのコンポーネントオブジェクト モデル インタフェースが含まれています。
[サンプルの NWD ファイル]	さまざまな機能のサンプル ファイルが含まれています。
[バッチ ユーティリティ]	コマンドの実行およびスケジュール設定をするアドインが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。
[サンプルの RPC]	いくつかの Rich Photorealistic Content ファイルが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。
Inventor Switchback Plugin	Inventor モデルで Switchback 機能を使用するために必要な Inventor Switchback アドインが含まれています。このオプションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。

注: Autodesk Navisworks 書き込みプラグインでは、このときはインストールするプラグインを変更することはできません。既定では、クライアントコンピュータにインストールされているすべてのサードパーティ製品用のエクスポータ プラグインが、自動的に有効になります。

必要に応じて設定を調整した後、製品名をクリックして設定パネルを閉じます。

プロジェクトフォルダとサイトフォルダを選択

配置をセットアップするとき、複数種類の Autodesk Navisworks 設定をプロジェクト サイト全体で共有することも、必要な粒度レベルに応じて特定のプロジェクト グループにわたって共有することもできます。

関連事項:

[Autodesk Navisworks の設定をサイトおよびプロジェクト単位で共有する方法 \(54 ページ\)](#)

プロジェクト フォルダとサイト フォルダを選択するには

- 1 **[インストールの環境設定]** ページで、製品の設定を行う必要がある場合は、製品名をクリックして設定の確認と変更を行える設定パネルを開きます。
- 2 **[プロジェクト フォルダ]** ボックスで、**[参照]** ボタンをクリックして、プロジェクト グループに固有の Autodesk Navisworks 設定を含むフォルダを選択します。
- 3 **[サイト フォルダ]** ボックスで、**[参照]** ボタンをクリックしてプロジェクト サイト全体に適用する Autodesk Navisworks 設定が存在するフォルダを選択します。

追加の設定オプションを選択する

次のオプションは、インストレーションウィザードの**[配置を作成] > [配置を設定]** ページの設定パネルで指定できます。

ユーザ設定をカスタマイズしたり、追加ファイルやサービス パックを含めたり、**[コミュニケーションセンターのオプション]** を指定してインストールすることができます。選択した各製品のオンライン リソースにアクセスすることができます。いくつかのオプションは、すべての製品で使用できない場合があります。

追加ファイル

スタイルシート、イメージ、サンプル ファイルなど追加ファイルを配置に含めることができます。プロジェクト全体やプロジェクト グループで Autodesk

Navisworks 設定を共有する場合、プロジェクト フォルダとサイト フォルダを使用することをお勧めします。

ユーザ基本設定

- スタートアップ時によろこ画面を表示する
- [インストール時に **Internet Explorer** を必須とする] (Autodesk Navisworks には適用されません)
- [DWFx を既定のパブリッシュ形式に設定する] (Autodesk Navisworks には適用されません)
- [既定のプロファイル名を設定] (Autodesk Navisworks には適用されません)
- **Autodesk Navisworks 2013** のデスクトップ ショートカットを作成

Service Pack

配置にサービス パックを含めることができます。詳細は、「[Service Pack を含める \(29 ページ\)](#)」を参照してください。

コミュニケーションセンター オプション

- [Live Update を利用可能]
- [情報チャンネルを利用可能]
- [CAD マネージャ チャンネルを利用可能] (Autodesk Navisworks には適用されません)
- [RSS フィードを利用可能]
- [ユーザが RSS フィードを追加することを許可]

オンライン リソースへのアクセス

- [オンライン ツールへのアクセス機能を指定] (Autodesk Navisworks には適用されません)
- [カスタマー エラー報告(CER)設定を指定]
- [情報センターの検索設定を指定] (Autodesk Navisworks には適用されません)

配置を作成する

配置には、インストール プログラムの既定の振る舞いを変更する、Microsoft トランスフォーム ファイル(.MST)が含まれます。

配置の作成開始時に、管理イメージの場所、配置の名前、および配置の適用先システムのオペレーティング システムが 32 ビットか 64 ビットかを選択する必要があります。

既定値を使用して元の配置を作成するには

- 1 コンピュータ上で実行中のアプリケーションをすべて閉じて、**[インストール]**ウィザードを開始します。
- 2 **[インストール]**ウィザード上で、必要に応じて、**[インストーラの言語]**ドロップダウンから、**[インストール]**ウィザードの代わりに言語を選択して**[配置を作成]**をクリックします。
- 3 **[環境設定]**ページの、**[管理イメージ]**セクションで、次のデータを指定します。
 - a **[配置環境設定の名前]**フィールドに、ユーザ グループ、プラットフォーム、その他の属性を示す名前を入力して、その配置の特徴がわかるようにします。ここで入力した名前が、ユーザが製品をインストールするときに指定するショートカットの名前になります。
 - b **[管理イメージのパス]**フィールドに、既存の共有ネットワークのパスを入力します。または、**[参照]**ボタンを使用して、その場所を指定します。この場所に、管理イメージが作成され、保存されます。ユーザはこの場所から、プログラムをインストールします。

ヒント: ネットワーク共有の作成方法については、「[ネットワーク共有を作成する \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

- c **[プラットフォームの種類]**領域で、インストール先のオペレーティング システムに応じて、**[32 ビット]**または**[64 ビット]**のいずれかを選択します。この選択は配置を作成したシステムを示すものではなく、適用先システムを示します。
- d この配置環境設定によって必要な製品のみを含めるかどうかを選択します。
 - 選択した場合、今後配置を修正して追加の製品を含めることはできません。

- 選択しない場合、管理イメージに対応可能なすべての製品が表示され、現在の配置を修正することが可能になります。

ヒント: 異なる製品の混合状態での複数の配置を管理イメージから作成して、インストールメディアを再度使用することがないようにしたい場合は、利用可能なすべての製品を含めることをお勧めします。ほとんど使用しないか決して使用しない製品があり、追加の配置を作成しなくてよい場合は、製品のサブセットのみを選択すべきです。

4 **[インストール設定]**セクションで、1つまたは複数のオプションを選択します。

- **サイレントモード**インストールがバックグラウンドで実行され、ユーザの入力を求めるメッセージは表示されません。

注: サイレントモードの場合、インストール完了後に警告メッセージが出ずに、自動的にユーザのコンピュータが再起動されます。「[サイレントモード \(35 ページ\)](#)」も参照してください。

- **ワークステーション ログ:** 各ワークステーションのログファイルにより、ユーザは自身が実行したインストールの結果を確認し、問題の解決に役立てることができます。
- **ネットワーク ログ**中央ロケーションのログファイルは、すべてのインストールに関するデータを確認するための、ネットワーク管理者をサポートします。

注: ネットワーク ログが存在するフォルダは、配置のユーザが読み取りと書き取りのアクセス利を持つ共有フォルダにします。そうしないと、ユーザのインストールのログデータがログファイルに記録されません。ログファイルに関する情報は、「[ログファイルの場所を指定する \(35 ページ\)](#)」を参照してください。

5 **[次へ]**をクリックします。

6 **[製品情報]**ページで、必要に応じて**[製品の言語]**ドロップダウンを使用します([配置の言語を変更する \(37 ページ\)](#)を参照)。

7 **[ライセンスの種類]** (27 ページ)を選択し、**シリアル番号**と**プロダクトキー**を入力します。データが有効な場合は、緑のチェックマークが表示されます。**[次へ]**をクリックします。

- 8 オートデスクソフトウェア使用許諾契約をお読みください。インストールを続けるには、使用許諾契約に同意する必要があります。国/地域を選択し、**[同意する]**を選択し、**[次へ]**をクリックします。

注: 使用許諾契約の内容に同意しない場合は、**[キャンセル]**をクリックしてインストールを終了します。

- 9 **[配置を設定]**ページで、この配置に含める製品を選択し、**[作成]**をクリックします。

配置を作成した後、**[配置環境設定の完了]**ページが開き、新規配置への便利なパスが表示され、製品をオンラインで登録するためのリンクも表示されます。

- 10 この画面での操作が完了したら、**[完了]**をクリックします。

カスタムした値を使用して元の配置を作成するには

- 1 コンピュータ上で実行中のアプリケーションをすべて閉じて、**[インストール]**ウィザードを開始します。
- 2 **[インストール]**ウィザード上で、必要に応じて、**[インストーラの言語]**ドロップダウンから、**[インストール]**ウィザードの代わりに言語を選択して**[配置を作成]**をクリックします。
- 3 **[環境設定]**ページの、**[管理イメージ]**セクションで、次のデータを指定します。

- a **[配置環境設定の名前]**フィールドに、ユーザグループ、プラットフォーム、その他の属性を示す名前を入力して、その配置の特徴がわかるようにします。ここで入力した名前が、ユーザが製品をインストールするときに指定するショートカットの名前になります。

- b **[管理イメージのパス]**フィールドに、既存の共有ネットワークのパスを入力します。または、**[参照]**ボタンを使用して、その場所を指定します。この場所に、管理イメージが作成され、保存されます。ユーザはこの場所から、プログラムをインストールします。

注: ネットワーク共有の作成方法については、「[ネットワーク共有を作成する \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

- c **[プラットフォームの種類]**領域で、インストール先のオペレーティングシステムに応じて、**[32 ビット]**または**[64 ビット]**のいずれかを選択します。この選択は配置を作成したシステムを示すものではなく、適用先システムを示します。

- d この配置環境設定によって必要な製品のみを含めるかどうかを選択します。
- 選択した場合、今後配置を修正して追加の製品を含めることはできません。
 - 選択しない場合、管理イメージに対応可能なすべての製品が表示され、現在の配置を修正することが可能になります。

ヒント: 異なる製品の混合状態での複数の配置を管理イメージから作成して、インストールメディアを再度使用することがないようにしたい場合は、利用可能なすべての製品を含めることをお勧めします。ほとんど使用しないか決して使用しない製品があり、追加の配置を作成しなくてよい場合は、製品のサブセットのみを選択すべきです。

- 4 **[インストール設定]**セクションで、1つまたは複数のオプションを選択します。
- **サイレントモードインストール**がバックグラウンドで実行され、ユーザの入力を求めるメッセージは表示されません。
- 注:** サイレントモードの場合、インストール完了後に警告メッセージが出ずに、自動的にユーザのコンピュータが再起動されます。「[サイレントモード \(35 ページ\)](#)」も参照してください。
- **ワークステーション ログ:** 各ワークステーションのログファイルにより、ユーザは自身が実行したインストールの結果を確認し、問題の解決に役立てることができます。
 - **ネットワーク ログ**中央ロケーションのログファイルは、すべてのインストールに関するデータを確認するための、ネットワーク管理者をサポートします。
- 注:** ネットワーク ログが存在するフォルダは、配置のユーザが読み取りと書き取りのアクセス利を持つ共有フォルダにします。そうしないと、ユーザのインストールのログデータがログファイルに記録されません。ログファイルに関する情報は、「[ログファイルの場所を指定する \(35 ページ\)](#)」を参照してください。
- 5 **[次へ]**をクリックします。
- 6 **[製品情報]**ページで、必要に応じて**[製品の言語]**ドロップダウンを使用します([配置の言語を変更する \(37 ページ\)](#)を参照)。

- 7 [\[ライセンスの種類\]](#) (27 ページ) を選択し、**シリアル番号とプロダクト キー** を入力します。データが有効な場合は、緑のチェックマークが表示されます。[\[次へ\]](#) をクリックします。
- 8 オートデスク ソフトウェア 使用許諾契約をお読みください。インストールを続けるには、使用許諾契約に同意する必要があります。国/地域を選択し、[\[同意する\]](#) を選択し、[\[次へ\]](#) をクリックします。

注: 使用許諾契約の内容に同意しない場合は、[\[キャンセル\]](#) をクリックしてインストールを終了します。

- 9 [\[配置を設定\]](#) ページで、配置する製品を選択します。
- 10 製品の設定を行う必要がある場合は、製品名をクリックして設定の確認と変更を行える設定パネルを開きます。詳細は、「[配置のため個々の製品を設定する \(38 ページ\)](#)」を参照してください。

注: 選択した環境設定は、配置からインストールされた製品の各インスタンスに適用されます。配置の作成後は、これらの設定は配置を変更することによってのみ変更可能です。

製品名をクリックして、[\[設定\]](#) パネルを閉じます。

- 11 [\[作成\]](#) をクリックします。
配置を作成した後、[\[配置環境設定の完了\]](#) ページが開き、新規配置への便利なパスが表示され、製品をオンラインで登録するためのリンクも表示されます。
- 12 この画面での操作が完了したら、[\[完了\]](#) をクリックします。

配置を修正する

配置を作成した後で、クライアント ワークステーションのために配置を修正する必要が生じる場合があります。

各配置フォルダの内部には、[\[配置の作成と修正\]](#) という名前のショートカット (.LNK ファイル) を含むツール フォルダがあります。このショートカットを使用して、次の操作を実行できます。

- 新規の配置設置を作成する
- 既存の配置をテンプレートして使用する新規の配置設定を作成する
- 既存の配置の設定を修正する

元の配置を作成したときと同様に、インストーラのページで一連の操作のガイドが表示されます。配置設定で必要とされる製品のみを含むように元の管理イメージが設定されている場合、配置の作成または修正のオプションには制限があります。具体的には、元の管理イメージにない製品を配置に追加することができないという制限があります。配置設定で必要とされる製品のみを含むように元の管理イメージが設定されていない場合、すべての製品ファイルが含まれます。その結果、この配置を修正したり、新規の配置の設定を作成するときに、製品を追加することができます。

配置を修正するには

- 1 配置を含む共有ネットワーク フォルダを開きます。
- 2 **Tools** フォルダで、**[配置を作成または修正]**ショートカットをダブルクリックします。
インストーラが**[配置を修正]**ページで開きます。
- 3 配置の設定ページで、必要なオプションを選択します。
- 4 **[配置を作成]**ボタンをクリックします。

ユーザに管理イメージを通知する

配置の作成を終了すると、ユーザは、管理イメージと一緒に格納されている配置フォルダ内のショートカット(.LNK ファイル)を使用して、プログラムをインストールできるようになります。

ショートカットの名前は、配置の作成時に指定した配置の名前と同じです。ショートカット名とその場所をユーザに通知します。ショートカット アイコンをダブルクリックしてインストールを開始するようにユーザに指示します。配置でサイレント モードが使用される場合、製品のインストール後にコンピュータが自動的に再起動する場合がありますため、インストール中はその他のアプリケーションを閉じたままにしておくようユーザに指示します。

ユーザに管理イメージを通知するには

- 配置のインストール方法をユーザに通知する最も簡単な方法は、ショートカットの使用法をユーザに電子メールで送ることです。通知では必ず、配置の格納場所を示し、配置へのショートカットをダブルクリックするように指示してください。

配布方法の概要

Autodesk Navisworks を配布するには、次の方法を使用できます。

オートデスクプログラムを配布するいくつかの方法を選択できます。ネットワーク共有は既定の方法です。

- **ネットワーク共有:** ユーザは、配置ウィザードを使用して作成したショートカットアイコンを使用してプログラムを起動します。プログラムはユーザのローカルなコンピュータにインストールされ、製品のアイコンがデスクトップに表示されます。詳細は、「[ユーザに管理イメージを通知する \(47 ページ\)](#)」を参照してください。
- **スクリプト:** スクリプトは、1つまたは一連のコマンドを実行します。スクリプトはバッチファイルに似ていますが、より柔軟です。インストールスクリプトは、ネットワークに接続されたコンピュータ上に、プログラムをスタンドアロンインストールするときに、非常に便利です。スクリプトはネットワークで、Service Pack、Extension、Object Enabler をインストールする場合にも便利です。
- **ディスクイメージ作成ソフトウェア:** Norton Ghost などのイメージ作成ソフトウェアを使用して、オートデスク製品を配布するためのマスターイメージを作成できます。マスターイメージを作成したら、ユーザの施設内の他のコンピュータに複製できます。

ディスクイメージ作成ソフトウェアの使用は、製品ライセンスの競合、不完全なインストール、およびアクティベーションの問題を招くことがあるため、慎重に行う必要があります。

インストールに関する質問

4

このセクションでは、インストールおよび配置に関するいくつかの FAQ に対する回答を提供します。

より詳細なアドバイスや支援が必要な場合は、[Autodesk Support](#) にアクセスし、ご使用の製品の知識ベースで検索してください。

インストールに関する一般的な質問

このセクションでは、インストールに関するいくつかの FAQ に対する回答を提供します。

シリアル番号やプロダクト キーを紛失するとどうなりますか?

可能な場合は、製品のパッケージまたは購入記録を調べてください。または、[オートデスク カスタマー サービス](#) に連絡してください。

なぜ、製品のインストール後にアクティベーションが必要なのですか?

アクティベーションは、オートデスクのため、およびライセンス所有者であるユーザーのために、オートデスク製品が有資格のコンピュータにインストールされたことを確認します。アクティベーション処理は、ライセンスの安全確保と管理を改

善します。たとえば、マルチシート ライセンスが許可されたユーザ数を超えて使用されることを確実に防止します。

Web サイトからオートデスク製品をインストールできますか?

サブスクリプション、教育機関向け、オンラインストア、マイ アカウント、体験版サイトなど、複数のオートデスク Web サイトから製品をダウンロードできます。ダウンロードが可能な各サイトでは、各自の動作環境に合ったダウンロード方法を選択できます。ご使用のコンピュータに直接製品をインストールする場合は、Web インストーラを使用できます。後で製品をインストールしたり配置を作成するためにファイルをダウンロードする場合は、ダウンロードマネージャまたはブラウザダウンロードを使用できます。詳細は、ダウンロード Web サイトを参照してください。

Autodesk Navisworks を登録し、アクティベーションを行う方法

Autodesk Navisworks 2013 を初めて起動すると、**[オートデスク ライセンス]**ウィザードが表示されます。このときに Autodesk Navisworks のアクティベーションを行うか、Autodesk Navisworks を実行して後でアクティベーションを行うことができます。

Autodesk Navisworks 2013 を登録して、有効なアクティベーションコードを入力するまでは、試用モードでプログラムを操作することになります。また、プログラムを初めて起動したときから 30 日間、**[オートデスク ライセンス]**ウィザードが表示されます。登録せず、有効なアクティベーション コードを入力しないまま試用モードで Autodesk Navisworks 2013 を実行して 30 日が過ぎると、Autodesk Navisworks 2013 の登録とアクティベーションを行うオプションのみが表示されます。30 日が過ぎたら、試用モードでは実行できなくなります。一度 Autodesk Navisworks 2013 の登録とアクティベーションを行うと、**[オートデスク ライセンス]**ウィザードは表示されなくなります。

ヒント: 製品の登録とアクティベーションを最も早く、最も確実にを行う方法は、インターネットを使用することです。登録情報を入力して、インターネット経由でオートデスクに送信するだけです。情報を送信すると、ただちに登録とアクティベーションが行われます。

Autodesk Navisworks を製品スイートの一部を構成するものとしてインストールした場合、通常 30 日の期限の 1 回限りの試用期間が製品スイートのすべての Autodesk 製品に適用されます。その中の最初の製品が開始されたときに、試用期間のカウントダウンがすべての製品に対して開始します。試用期間が終了する前にスイート製品のどれか 1 つでもアクティベーションしない場合、すべての製品へのアクセスが拒否されます。試用期間の終了後は、アクティベーションコードを入力することによって製品へのアクセスが復元されます。

Autodesk Navisworks 2013 を登録し、アクティベーションを行うには

- 1 [スタート] ▶ [プログラム]または[すべてのプログラム] ▶ **[Autodesk]** ▶ Autodesk Navisworks 2013 ▶ Autodesk Navisworks 2013をクリックします。
- 2 Autodesk Navisworks 2013 の[オートデスク ライセンス]ウィザードで、**[製品の登録とアクティベーション コードの取得]**を選択して、**[次へ]**をクリックします。
これにより、**今すぐ登録**を開始できます。
- 3 **[登録およびアクティベーション](アクティベーションコードをこれから取得する場合)]**をクリックします。
- 4 **[次へ]**をクリックして、画面の指示に従います。
インターネットにアクセスできないときや、他の登録方法を使用したいときには、次のいずれかの方法で、Autodesk Navisworks 2013 の登録とアクティベーションを行うことができます。
 - **電子メール:** 登録情報を記載した電子メール メッセージを作成し、オートデスクに送信します。
 - **FAX または郵送:** 登録情報を記入し、オートデスクに FAX または郵送します。

スタンドアロンからネットワークにライセンスを切り替えるための方法

単純に間違ったライセンスを入力した状態で、インストーラを実行してしまっている場合は、**[戻る]**ボタンを使用して**[製品情報]**ページに戻り、**[ライセンスの種類]**を変更します。

インストールされた製品のライセンスの種類を変更する場合は、オートデスク認定リセラーまたはライセンス サプライヤに問い合わせて、新しいライセンスおよびシリアル番号を取得してください。その後、製品をアンインストールし、新たにインストールを実行して、ライセンスの種類を変更してシリアル番号を入力します。

インストールのあと、製品のライセンス情報はどこで確認できますか？

[ヘルプ]メニュー ▶ [バージョン情報]または[<製品名>バージョン情報]を選択します。ご使用の製品が[情報センター]を使用している場合は、[ヘルプ]メニューと同じ場所にあります。

グラフィックカードドライバを更新する必要があるかどうかを確認するには、どうしたらよろしいですか？

表示処理のパフォーマンスを最大にするため、最新バージョンのグラフィックカード ドライバを使用することを推奨します。

グラフィックス カード ドライバを確認するには

- 1 Autodesk Navisworks 2013 を起動します。
- 2 **[InfoCenter]**ボックスで、**[ヘルプ]**の横の下向き矢印 ▶ **[システム情報]**をクリックします。

Autodesk Navisworks 2013 の情報を示すダイアログ ボックスが開きます。

- 3 グラフィック カードおよびドライバのバージョンを含むシステム情報を確認し、**[OK]**をクリックしてダイアログを閉じます。

新しいバージョンのグラフィック カード ドライバが **Web** 上で公開されているかどうかを確認するには

- Windows Update を使用します。新しいバージョンのグラフィック カード ドライバが公開されている場合、そのドライバを選択し、Windows Update でそのドライバをダウンロードしてインストールします。
- グラフィック カード製造元の Web サイトで、PC に搭載されているグラフィック カードのタイプを検索します。新しいバージョンのグラフィック カードドライバが公開されている場合、製造元の指示に従ってそのドライバをインストールします。

新しいバージョンのグラフィック カード ドライバをインストールするには

- 1 Web で、新しいバージョンのグラフィック カード ドライバが公開されているかどうかを確認します。
 - Windows Update を使用します。
 - グラフィック カード製造元の Web サイトで、PC に搭載されているグラフィック カードのタイプを検索します。
- 2 最新のグラフィック カードドライバが公開されている場合は、Web サイトに記載されている指示に従って、ダウンロードおよびインストールします。

標準インストールを実行すると、何がインストールされますか?

Autodesk Navisworks 2013 の標準インストールには、次の機能が含まれます。

[再頒布可能 Active X コントロール]	Autodesk Navisworks ActiveX Lite コントロールが含まれています。
[API]	Autodesk Navisworks Manage と Autodesk Navisworks Simulate の機能をカスタマイ

	ズおよび拡張するためのコンポーネント オブジェクト モデル インタフェースが含ま れています。
[サンプルの NWD ファイル]	さまざまな機能のサンプル ファイルが含ま れています。
[バッチ ユーティリティ]	コマンドの実行およびスケジュール設定を するアドインが含まれています。このオブ ションは、Autodesk Navisworks Freedom には使用できません。
[サンプルの RPC]	いくつかの Rich Photorealistic Content ファ イルが含まれています。このオプション は、Autodesk Navisworks Freedom には使 用できません。
Inventor Switchback Plugin	Inventor モデルで Switchback 機能を使用 するために必要な Inventor Switchback ア ドインが含まれています。このオプション は、Autodesk Navisworks Freedom には使 用できません。

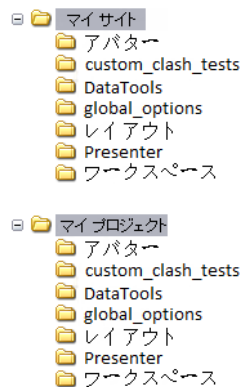
Autodesk Navisworks の設定をサイトおよび プロジェクト単位で共有する方法

Autodesk Navisworks の設定情報を共有するには、共有したい設定情報を、適切なサイト フォルダまたはプロジェクト フォルダの下の *global_options* フォルダに XML ファイル形式でエクスポートします。XML ファイルの名前は何でもかまいません。ただし、必ず *global_options* フォルダに配置する必要があります。

ヒント: グローバル オプションを設定する場合、ユーザが後でローカル コンピュータで編集できないように、いくつかのオプションをロックすることもできます。ロックされたグローバル オプション ファイルを作成するには、コマンドラインで "drive:pathname¥OptionsEditor.exe" -l と入力し、スタンドアロンの **オプション エディタ** を起動します。ロック機能を持つ **オプション エディタ** が開きます。

サイト単位およびプロジェクト単位で設定情報を共有するには

- 1 中央場所にサイト フォルダ、プロジェクト フォルダ、およびそれぞれのサブフォルダを作成し、他の Navisworks ユーザからアクセスできるようにします。



- 2 Autodesk Navisworks で、アプリケーション ボタン ▶ **オプション エディタ** をクリックします。
- 3 **エクスポート** をクリックします。
- 4 **エクスポートのオプションを選択** ダイアログ ボックスで、エクスポートするオプションのチェック ボックスをすべてオンにし、**[OK]** をクリックします。
- 5 **名前を付けて保存** ダイアログ ボックスで、XML ファイルの名前を入力し、適切なサイト フォルダまたはプロジェクト フォルダの下の *global_options* フォルダに保存します。

関連事項:

[プロジェクト フォルダとサイト フォルダを選択 \(40 ページ\)](#)

インストールするエクスポートプラグインを変更する方法

Autodesk Navisworks エクスポート プラグインの場合、エクスポート プラグインをクリックして、インストールウィザードの[インストールを設定]ページの設定パネルを開いて、インストールするエクスポート プラグインを変更できます。



: ご使用のコンピュータに既にインストールされているサードパーティ製ソフトウェアを示します。



: インストールされていないか、[インストール]ウィザードで検出されないサードパーティ製ソフトウェアのプラグインを示します。

必要なプラグインすべてのチェックボックスを選択します。サードパーティ製のソフトウェアがウィザードで検出されなかった場合は、手動でプラグインを有効にできます。チェックボックスを選択すると、ソフトウェアの正しいインストール先を参照できるダイアログ ボックスが表示されます。

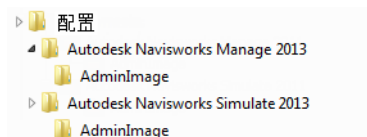
配置およびネットワークに関する質問

このセクションでは、配置およびネットワークに関するいくつかの FAQ に対する回答を提供します。

どこに配置すべきですか?

共有フォルダは、ネットワーク ライセンス インストールとマルチシート スタンドアロン インストールのどちらにも必要です。

配置を保存するシステムのデスクトップに **Deployments**(配置)という名前のネットワーク共有フォルダを作成することをお勧めします。次に、共有 **Deployments** フォルダ内に、配置を予定している製品の名前を明確に示すサブフォルダを追加できます。例:



同一の製品またはスイートの配置を複数作成し、異なるユーザグループに対して設定する場合、これらの配置では同一の管理イメージを共有でき、配置のショートカットを同一のフォルダに収めることができます。共有フォルダ内のサブフォルダは自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク共有の詳細については、「[ネットワーク共有を作成する \(30 ページ\)](#)」を参照してください。

管理イメージに対してすべての製品を選択しなくてはならない場合と、製品を後で追加する方法について

配置にすべての製品を含めると、管理イメージはより大きくなりますが、配置の修正や、新規の配置の作成を制限なく行うことができます。**[この配置環境設定によって必要な製品のみを含める]**チェックボックスを選択すると、配置には使用可能な製品のサブセットが含まれるようになります。この配置に対する変更や、最初の配置に基づいた追加の配置は、同じ製品のセットまたはより少ない製品に限定されます。

異なる製品の混合状態での複数の配置を管理イメージから作成して、インストールメディアを再度使用することがないようにしたい場合は、利用可能なすべての製品を含めることをお勧めします。ほとんど使用しないか決して使用しない製品があり、追加の配置を作成しなくてよい場合は、製品のサブセットのみを選択すべきです。

別の配置を後で作成して、追加の製品を含めるようにすることもできますが、そのためにはインストールディスクから新規の管理イメージを作成する必要があります。

Service Pack が自分のソフトウェアで利用できるかどうかを確認するにはどうしたらよろしいですか？

ご使用の製品でパッチやサービスパックが利用できるかどうかを確認するには、オートデスク製品の [サポート ページ](#) を参照してください。

32 ビット配置と 64 ビット配置のどちらを選択したらよろしいのですか？

32 ビット配置と 64 ビット配置のいずれかを選択できます。この選択は、配置のターゲットとなるオペレーティング システムを決めるもので、配置に含まれる製品の種類には無関係です。

- 32 ビット配置では 32 ビット製品が選択でき、32 ビットのオペレーティング システムだけにインストールできます。
- 64 ビット配置では 32 ビットと 64 ビットの製品が選択でき、64 ビットのオペレーティング システムだけにインストールできます。

したがって、たとえば 32 ビット版製品を 64 ビット版オペレーティング システムにインストールする場合は、64 ビット配置を選択する必要があります。

注: どちらの種類もオペレーティング システムでも、両方の種類の配置を作成できます。

サーバ名はどのように調べるのですか？

ネットワーク ライセンス製品のインストール時に、**Network License Manager** を実行するサーバの名前を指定する必要があります。

サーバ名がわからない場合は、**Network License Manager** のシステムの Windows コマンド プロンプトを開くことにより、素早く見つけることができます。コマンド プロンプトに対して、`ipconfig /all` と入力し、**ホスト名**の項目をメモしてください。

管理イメージ(MSI)ファイルとは何ですか?

管理イメージは、配置処理中に作成された共有ファイル リソースのコレクションで、プログラムをネットワーク ワークステーションにインストールする配置によって使用されます。MSI ファイルは、Microsoft インストーラ ファイルです。

MSPファイルはどうやって解凍するのですか?

Microsoft パッチ(MSP)ファイルは、通常、ご使用の製品のサポート Web サイトからダウンロードする実行可能な Service Pack に含まれています。実行ファイルから、MSP ファイルを解凍するには、/a スイッチを使用して Windows コマンドプロンプトから、パッチプログラムを実行します。構文は、次のとおりです。<ローカル_ドライブ>:>¥<パッチ_名前>.exe /a。[[Service Pack を含める \(29 ページ\)](#)] も参照してください。

ファイアウォールに対するネットワークライセンス サーバの設定方法

ライセンス サーバとクライアント コンピュータの間にファイアウォールを設置している場合、ライセンス関連の通信用にサーバ上の TCP/IP ポートをいくつか空けておく必要があります。ポート 2080 を adskflex 用に、ポート 27000 ~ 27009 を lmgrd 用にそれぞれ開きます。

ライセンスの疑問

スタンドアロンライセンスとネットワークライセンスの違いは何ですか?

スタンドアロン ライセンスは、個々のユーザに対して 1 つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。同様に、マルチシート スタンドアロン ライセンスは、一定数のユーザをサポートします。ソフトウェアを複数のコンピュータに

インストールできますが、ライセンスされたユーザ数を超えることはできません。

ネットワーク ライセンスは、ネットワークに接続されたユーザの指定された最大数をサポートします。ソフトウェア ユーティリティの Network License Manager(NLM)が、購入ライセンスの最大数までユーザにライセンスを発行します。現時点では、購入ライセンス数を超えるコンピュータでは、ライセンスが NLM に返却されるまではオートデスク製品を実行できません。

ネットワークライセンスバージョンのソフトウェアを使用するメリットは何ですか？

大きな製図/設計組織や教室など多数のユーザをサポートする必要がある環境では、ネットワーク ライセンスを使用すると、ライセンスの管理が容易になります。Network License Manager でライセンスの登録、アクティベーション、ユーザへの配布など、ライセンスを集中的に管理できます。ネットワーク ライセンスの主な利点の 1 つは、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです。たとえば、25 のライセンスを購入し、利便性をよくするために 40 台のコンピュータにインストールできます。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できます。つまり、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。また、ネットワーク ライセンス システムでは、ユーザは有効期間中であれば、ネットワークに接続していないコンピュータでライセンスを借用して使用できるように環境設定することもできます。

SAMreport-Lite とは何ですか？

SAMreport-Lite は、FLEXnet™ を使用する製品のネットワーク ライセンスの使用状態をモニタするためのレポート作成ソフトウェアです。SAMreport-Lite はオートデスク製品とともに配布されませんが、オートデスクから入手できます。SAMreport-Lite を使用すると、ソフトウェア ライセンスの管理に役立ちます。詳細は、[SAMreport-Lite](#) を参照してください。

アンインストールとメンテナンスの疑問

どうすれば、既定のインストレーションの内容を確認できますか？

既定のインストレーションでインストールされる内容を確認するには、製品の[環境設定]ページまでインストール手順を進めます。そこで選択されている製品が、既定のインストレーションでインストールされます。選択した製品ボックスをクリックして環境設定パネルを開くと、サブコンポーネントと機能の既定の設定を確認できます。

機能を追加または削除するときに、インストレーションフォルダを変更できますか？

製品をインストールした後は、インストレーションパスを変更することはできません。機能を追加するときにパスを変更すると、プログラムが破損することがあるので、変更はできません。

どうすれば、製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをインストールできますか？

製品メディアから再度インストーラを実行し、最初の画面で[ツールとユーティリティ]をクリックします。インストーラで、ツールとユーティリティの選択、環境設定、インストールを行います。

製品を修復するのではなく再インストールするのはどんなときですか？

プログラムで必要なファイルを誤って削除したり変更した場合に、製品を再インストールします。失われたファイルや変更されたファイルは、製品のパフォーマンスに悪影響を与えます。また、コマンドの実行やファイルの検索を試みたときにエラーメッセージが表示される原因になります。

インストールの修復に失敗した場合は、次善の策として再インストールがあります。

製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか？

はい。製品を再インストールするときに、製品メディアを挿入するように求められます。製品がネットワーク配置からインストールされた場合は、後で Service Pack が追加されるなどして変更されたものではない元の配置にアクセスする必要があります。

ソフトウェアをアンインストールするとき、システムにはどのようなファイルが残りますか？

製品をアンインストールすると、作成または編集したファイル(たとえば、図面やカスタムメニュー)など、一部のファイルがコンピュータに残ります。

また、ライセンスファイルもコンピュータに残ります。同じコンピュータに再インストールする場合、ライセンス情報は有効なままなので、再度製品のアクティベーションを行う必要はありません。

用語集

5

Service Pack 一般に多数のコード修正を含む重要なアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

アクティベーション オートデスク ソフトウェア登録手続きの一部で、これにより、製品のエンドユーザ ライセンス使用許諾同意書に基づいて製品を実行することが許可されます。

インストレーションイメージ 1 つまたは複数の MSI ファイルとその関連データ ファイル、関連するトランスフォーム、追加のユーザ固有のカスタム ファイル、プロファイル、レジストリ設定からなる配置。

管理イメージ 配置プロセスにより作成された共有ファイル リソースのコレクションで、プログラムをネットワーク コンピュータにインストールするために使用されます。

言語パック インストールされるファイルのセットで、一部のオートデスク製品で使用されます。ユーザは言語パックで指定された言語を使用して、アプリケーションで作業できるようになります。

言語ファミリー 通常は地理的な分類に基づいて、一緒に配布される言語のセット(中核製品と言語パック)。すべてのオートデスク製品についてこの方法で言語が配布されるわけではありません。

サイレント モード 一切のユーザ入力が必要なインストール。ユーザの関与を必要とするダイアログ ボックスはまったく表示されません。

ネットワーク ライセンス インストレーション 複数のコンピュータに製品をインストールし、ライセンスの配布は Network License Manager で処理されるインストール。

配置 ネットワーク上の 1 つまたは複数のコンピュータにオートデスク製品をインストールする処理。

パッチ アプリケーションを更新するソフトウェア。

ホット フィックス 少数のコード修正を含むマイナーなアプリケーション パッチに対するオートデスク用語。

マルチシート スタンドアロン インストール ション 1 つのシリアル番号を使用して、製品の複数のスタンドアロン シートをインストールするインストール。

ライセンス転送ユーティリティ オートデスク・サーバを使用して、コンピュータ間でオートデスク製品のスタンドアロン ライセンスの転送に使用されるツール。転送元と転送先のコンピュータの両方でインターネット接続が必要です。

索引

N

Network License Manager 32

S

SAMreport-Lite 60

W

Web ベースのインストール 50

あ

アクティベーション 49
アップグレード 20
アンインストール, 製品を 62

い

インストール 10
 一般的な質問 49
 既定の設定 61
 共存 20
 言語 7
 スタンドアロン 3
 ツールとユーティリティ 61
 トラブルシューティング 49
 配置 21
 配置に関する問題 56
 複数ユーザ用 21
インストール パス, 変更 61

か

環境設定
 既定の 61

管理イメージ 57

き

既定のインストール 61
共存インストール 20

さ

再インストール, 製品を 62

し

システム要件
 スタンドアロン インストール
 ン 4
 ネットワーク配置 24
冗長ライセンス サーバ 6
情報センター 52
シリアル番号 49
シングル ライセンス サーバ 6

す

スタンドアロン インストール 3
スタンドアロン ライセンス 59

た

ダウンロード マネージャ 50

つ

ツールとユーティリティ, インストール 61

ね

- ネットワーク共有 30
- ネットワーク配置 21
- ネットワーク ライセンス 59, 60
 - 使用レポート 60
- ネットワーク ライセンスのアクティベーション 32

は

- 配置
 - 修正 57

ふ

- 複数ユーザ用のインストール 21
- 分散ライセンス サーバ 6

よ

- 用語集 63

ら

- ライセンス サーバ モデル 6
- ライセンスの種類 6, 59